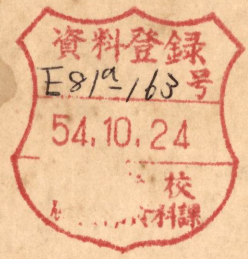


海軍機關學校

應用力學教科書(材料構造強弱) 卷之二 第三學年

昭和十四年八月



昭和十四年八月

海軍機關學校長 平岡

礪

本書ニ依リ材料構造強弱ヲ修得スヘシ

第二版 昭和十四年八月 海軍教授 中村行三 改訂增補
第一版 昭和十年四月 海軍教授 中村行三 編 纂

沿 革

海軍省圖書部 發行

記 號 表

E	縦弾性係數 (「ヤング」率)
G	横弾性係數 (剛性率)
I	慣性「モーメント」
J	極慣性「モーメント」
k	體積弾性率
M	曲ゲ「モーメント」
m	「ポアソン」ノ常數
P	集中荷重
Q	剪 斷 力
q	分布荷重ノ大サ
T	振リ「モーメント」
Z	斷面係數
γ	剪斷歪ミ
ϵ	縦歪ミ (引張歪ミ, 壓縮歪ミ), 伸ビ率(%)
$\epsilon_x, \epsilon_y, \epsilon_z$	x, y, z 方向ノ歪ミ
$\epsilon_1, \epsilon_2, \epsilon_3$	主 歪 ミ
μ	「ポアソン」比
τ	剪斷内力
τ_a	許容剪斷内力
τ'_a	許容振リ剪斷内力

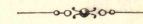
σ	直角内力
σ_a	許容引張内力
σ_{-a}	許容壓縮内力
σ'_a	許容曲ゲ内力
σ_B	引張強サ
σ_{-B}	壓縮強サ
$\sigma_x, \sigma_y, \sigma_z$	x, y, z 軸 = 垂直ナル平面ノ直角内力
$\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3$	主 内 力
φ	断面收縮率 (%)

應 用 力 學

材料構造強弱

卷 之 二

目 次



第 六 章 振 り	I
七一、 振 り	I
七二、 振リノ仕事	7
七三、 振リ = 基ヅク主内力	8
七四、 振リト推力トノ聯合作用	9
七五、 振リト曲ゲトノ聯合作用	11
七六、 振リト曲ゲト推力トノ聯合作用	16
七七、 結合内力ノ問題ト設計公式	17
七八、 「バネ」	18
第 七 章 構造強弱	21
七九、 平衡ノ根本原則	21
八〇、 平面結構	23
八一、 靜定結構 = 於ケル内應力ノ算定	24
八二、 結構應力ノ圖式算定法	31
八三、 飛行機々體構造	35

第八章	薄キ圓筒及球殻ノ強サ	40
八四、	内部ヨリ流體壓力ヲ受クル圓筒並ニ球殻	40
八五、	流體外壓ヲ受クル薄キ圓筒ノ強サ	43
第九章	厚キ圓筒ノ強サ	45
八六、	流體壓力ヲ受クル厚キ圓筒ノ強サ	45
八七、	層成筒——層成砲	53
八八、	實體軸ニ於ケル打込嵌メ	58
八九、	鋼條ニヨリ捲カレタル管	61
九〇、	厚キ管ニ於ケル熱内力	67
第一〇章	平板ノ強サ	75
九一、	平圓板	75
九二、	平板ノ近似的解	77
第十一章	回轉體ノ強サ	80
九三、	回轉環ニ起ル内力	80
九四、	回轉圓板ニ起ル内力	81
九五、	回轉圓環ニ起ル内力	87
九六、	厚サ一様ナラザル回轉圓板ニ起ル内力	93
九七、	均一ナル強サノ圓板	96

應用力學

材料構造強弱

卷之二

第六章

振り

七一、振り、(Torsion)

棒が其ノ其端ニ於テ其ノ軸ニ直角ナル平面上ニアル大サ等シク
向キ反對ノ二ツノ偶力ノ作用ヲ受クルトキ棒ハ振リ作用ヲ受ケツ
ツアリト稱シ、其ノ偶力ノ能率ヲ振リ「モーメント」ト云フ、
Twisting moment

棒ノ振リ作用ヲ論ズルニ當リ次ノ假定ヲナス、

- (i) 棒ノ全長ニ涉リ振リ作用ガ一樣ナルコト、即チ同ジ距離ヲ
隔ツ二ツノ横斷面ノ相對的ノ回轉ハ其ノ横斷面ヲ何處ニトル
モ同一ナリ、
- (ii) 棒ノ任意ノ横斷平面上ノ總テノ質點ハ振リヲ受ケタル後モ
同一平面上ニアリ、
- (iii) 棒ノ横斷面ノ半徑ハ振リヲ受ケタル後モ一直線ヲナスモノ
トス、

横断面が圓ナル棒アリテ上述ノ如キ振り作用ヲ受ク、此ノ棒ヲ其ノ軸ヲ中心軸トナス所ノ數多ノ薄キ管ニ分チタリト想像ス、第 131 圖ハ其ノ管ノ一ヲ示ス、管ノ半徑ヲ r トシ、長サヲ l トス、振り作用ヲ受クル前ニ管ノ表面ニ於テ軸ニ平行ナリシ直線 OA ハ振り作用ヲ受ケテ「ヘリックス」トナリ、 A ハ軸ニ直角ナル圓ノ周上ヲ動キテ B ニ至ル、 OB ト OA トノナス所ノ角ヲ γ トシ弧 AB ノ中心角ヲ θ トス、 γ モ θ モ甚ダ小ナルヲ以テ

$$\gamma = AB = r\theta$$

$$\gamma = \frac{r}{l}\theta$$

振りノ前ニ管ノ表面上ニ正方形 $KLMN$ ヲ其ノ一邊 KL ガ OA 上ニアル如クニ取リタリトスレバ、振りニヨリテ其ノ正方形ハ第 132 圖ニ示セル如ク平行四邊形 $KL'MN'$ トナリ、其ノ一邊 KL' ハ OB ノ上ニアルベシ、 KL ト KL' トノ間ノ角ハ γ ナリ、即チ正方形 $KLMN$ ハ振りニヨリ剪斷歪ミ γ ヲ受ケタルコトトナルベシ、管ノ厚サヲ δr トス、厚サ δr ナル小片 KN ハ其ノ厚サ、長サ、幅ハ伸縮無ク、歪ミトシテハ唯 γ ナル剪斷歪ミノミナリ、而シテ此ノ剪斷歪ミニ伴フ内力ハ

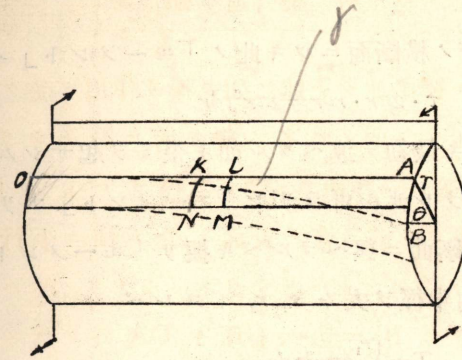
$$\tau = G\gamma$$

ナル剪斷内力ナリ、 τ ハ LN , KN ノ兩端面ニ存在スルト共ニ KL , MN ノ面ニモ存在スベシ、此ノ内力以外ノ内力無シ、 KM , LN ノ兩端へ隣接部ヨリ作用スル所ノ力ハ

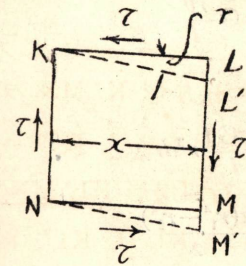
$$\tau \cdot \overline{LN} \cdot \delta r$$

管軸ニ關シ此ノ力ノ「モーメント」ハ

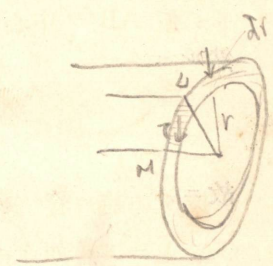
$$\tau \cdot \overline{LN} \cdot r \cdot \delta r$$



第 131 圖



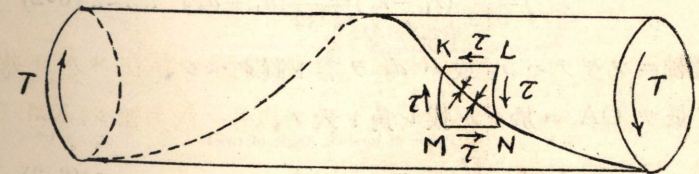
第 132 圖



$$dT = \tau \cdot 2\pi r \cdot \delta r \cdot r = 2\pi r^2 \tau \delta r$$

$$dT = 2\pi r^2 \tau dr$$

$$T = \int_{r_0}^{r_1} dT = \int_{r_0}^{r_1} 2\pi r^2 \tau dr$$



第 133 圖

dr ナル厚サノ管ノ横断面ニツキ此ノ「モーメント」ハ

$$\tau \cdot 2\pi r \cdot r dr = 2\pi r^2 \tau dr$$

是ガ振りニ基ヅキ最初ニ述ベタル如キ歪ミヲ起サシムルタメニ管ノ横断面ニ與ヘラレザル可ラザル「モーメント」ナリ、

T ヲ棒ノ全横断面ニ與ヘラルベキ振り「モーメント」トシ、横断面ノ外半径、内半径ヲ夫々 r_1, r_2 トスレバ

$$T = \int_{r_2}^{r_1} 2\pi r^2 \tau dr$$

然ルニ

$$\tau = G\gamma = G \frac{r\theta}{l}$$

故ニ

$$T = \int_{r_2}^{r_1} \frac{2\pi G\theta}{l} r^3 dr = \frac{G\theta}{l} \frac{\pi(r_1^4 - r_2^4)}{2}$$

即チ

$$T = \frac{GJ\theta}{l} \dots \dots \dots (6.1)$$

但シ J ハ横断面ノ極慣性「モーメント」ニシテ中空圓筒ニツキ

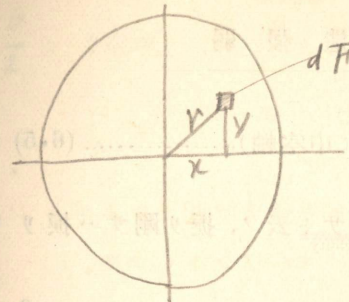
$$J = \frac{\pi}{2} (r_1^4 - r_2^4) = \frac{\pi}{32} (d_1^4 - d_2^4) \dots \dots \dots (6.2)$$

實體軸ニツキテハ r_2 或ハ d_2 ヲ零ト置クベシ、

θ ヲ長サ OA ニ於ケル振レ角ト云フ、
Angle of torsion, Angle of twist

$$\theta = \frac{Tl}{GJ} \text{ rad.} \dots \dots \dots (6.3)$$

$$\theta^\circ = \frac{583 Tl}{Gd^4} \text{ (實體軸)} \dots \dots \dots (6.4)$$



$$J = \int r^2 dF = \int y^2 dF + \int x^2 dF = I_x + I_y = \frac{2\pi}{16} d^4 = \frac{\pi}{32} d^4$$

又 $I_x = I_y = \frac{1}{16} \pi d^4$

$\theta = 2.5^\circ$

$$\theta = \frac{1.5 \times 10^6}{\pi} \times \frac{180}{\pi} = 57.0 / 17.144 = 8.06 \dots$$

$$\theta = \frac{Tl}{GJ} = \frac{Tl}{G} \frac{32}{\pi d^4} = \frac{Tl}{G} \frac{32 \times 57}{\pi d^4} = \frac{583 Tl}{Gd^4}$$

手書き
ねじり角

$$= \frac{583Tl}{G(d_1^4 - d_2^4)} \text{ (中空軸)} \dots\dots\dots (6.5)$$

$\frac{\theta}{l}$ ヲねじり角ト云ヒ、 GJ ヲねじり剛サト云フ、ねじり剛サハねじり「モーメント」トねじり角ノ比ナリ、

是ニ由リテ横断面ガ圓ナル所ノ棒ガ単ニ一様ナルねじり $\frac{\theta}{l}$ 「ラジアン」ヲ生ズルニハ (6.1) ニヨリテ表ハサルルねじり「モーメント」 T ヲ與フベキモノナリトノコトヲ知リタリ、之ヲ逆ニ云ヘバねじり「モーメント」 T ヲ與フレバ (6.1) ヲヨリ得ベキ $\frac{\theta}{l}$ ナル一様ナルねじり角惹キ起スベシ、

任意ノ半徑 r ノ位置ニ於ケル剪斷内力ハ

$$\tau = G \frac{r\theta}{l} \dots\dots\dots (6.6)$$

τ ノ最大値ハ中空軸ニ於テモ實體軸ニ於テモ

$$\tau_{max.} = G \frac{r_1\theta}{l} = G \frac{d_1\theta}{2l} \dots\dots\dots (6.7)$$

(6.1) ト (6.7) トニヨリ

$$\tau_{max.} = \frac{r_1 T}{J} = \frac{d_1 T}{2J} \dots\dots\dots (6.8)$$

又 (6.1) ト (6.6) トヨリ

$$\frac{\tau}{r} = \frac{T}{J} = \frac{G\theta}{l} \dots\dots\dots (6.9)$$

τ'_a ヲ許シ得ベキ剪斷内力ノ強サトスレバねじり抵抗「モーメント」ハ

$$T = \frac{\tau'_a \pi r_1^3}{2} = \frac{\pi}{16} d_1^3 \tau'_a \text{ (實體軸)} \dots\dots\dots (6.10)$$

$$T = \frac{\tau'_a \pi (r_1^4 - r_2^4)}{2r_1} = \frac{\pi}{16} \frac{d_1^4 - d_2^4}{d_1} \tau'_a \text{ (中空軸)} \dots\dots\dots (6.11)$$

$\frac{\theta}{2}$: ねじり角、単位長さサ、ねじり角

曲ゲ抵抗「モーメント」ハ既ニ知ル如ク

$$M = \frac{\sigma'_a I}{c} = \frac{\pi d^4 \sigma'_a}{64} = \frac{\pi d^3 \sigma'_a}{32}$$

若シモ假リニ $\tau'_a = \sigma'_a$ ナリトスレバ軸ノ振り「モーメント」ニ抵抗スル強サハ曲ゲ「モーメント」ニ抵抗スル強サノ二倍トナル、

振レ角ニ制限ヲナス場合、即チ剛サヨリ直徑ヲ定ムルニハ普通ハ直徑二十倍ノ長サニツキ振レ角ヲ 1° 以内トナス、(6.7)ニ於テ $l = 20d_1$ ト置キ τ_{max} ノ代リニ τ'_a ト置ケバ

$$\tau'_a = \frac{\pi d G}{180 \times 2 \times 20 d_1} = \frac{G}{2292}$$

G ヲ次ノ如キモノトスレバ

鋼	$G = 840,000 \text{ kg/cm}^2$	$\tau'_a = 367 \text{ kg/cm}^2$
鍛鐵	$G = 770,000 \text{ ,,}$	$\tau'_a = 336 \text{ ,,}$
鑄鐵	$G = 400,000 \text{ ,,}$	$\tau'_a = 175 \text{ ,,}$

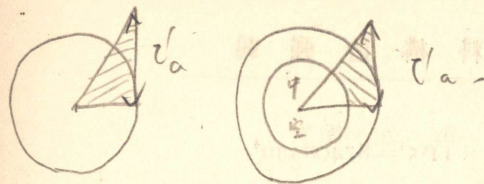
トナル、是等ノ値ハ剛サニヨリテ定メラレタルモノナリ、

例題一、直徑 23 cm. ノ實體軸ヲ、最大剪斷内力ヲ變ズルコト無クシテ、外徑ト内徑トノ比ガ 2 ト 1 ナル如キ中空軸ト取り換ヘントス、中空軸ノ内徑ト外徑ヲ求メ、尙是ニ由テ節約セラルル材料ノ百分比ヲ求ム、

實體軸ノ半徑、直徑ヲ夫々 r_0, d_0 トシ、中空軸ノ外半徑、内半徑ヲ夫々 r_1, r_2 トシ外直徑、内直徑ヲ夫々 d_1, d_2 トス、

$$d_0 = 23 \text{ cm}, \quad r_0 = 11.5 \text{ cm.}$$

$$r_1 = 2r_2.$$



$$J_0 = \frac{\pi}{2} r_0^4 = \frac{\pi}{2} \times 11.5^4 = 8740\pi \text{ cm}^4.$$

$$J = \frac{\pi}{2} (r_1^4 - r_2^4) = \frac{\pi}{2} (16r_2^4 - r_2^4) = 7.5\pi r_2^4 \text{ cm}^4.$$

實體軸ノ最大剪斷内力ハ

$$\frac{r_0 T}{J_0} = \frac{11.5 T}{8740\pi}$$

中空軸ノ最大剪斷内力ハ

$$\frac{2r_2 T}{J} = \frac{2r_2 T}{7.5\pi r_2^4} = \frac{T}{3.75\pi r_2^3}$$

是等兩式ヲ等シキモノトシテ

$$\frac{11.5 T}{8740\pi} = \frac{T}{3.75\pi r_2^3}$$

$$\therefore r_2^3 = \frac{8740}{11.5 \times 3.75} = 202.7$$

$$\therefore r_2 = 5.87 \text{ cm.}$$

$$\therefore d_2 = 11.74 \text{ cm.}$$

$$d_1 = 23.48 \text{ cm.}$$

新舊兩軸横斷面積ノ割合ハ

$$\frac{r_1^2 - r_2^2}{r_0^2} = 0.782$$

故ニ材料ノ重量ハ約 21.8 % 輕クナルベシ、

例題二、240 r.p.m.ニ於テ 10000 馬力ヲ傳達スベキ推進軸アリ、其ノ内直径 15.2 cm. ナリ、最大剪斷内力ヲ 1575 kg/cm^2 以内ナラシムルモノトシ、外徑ノ最小限度ヲ示セ、

$$1 \text{ 馬力} = 75 \text{ m. kg/sec.}$$

$$= 750 \text{ m. kg/sec.}$$

$$T = \frac{75 \times 10^6}{2\pi \times \frac{240}{60}} = 2.987 \times 10^6 \text{ kg. cm.}$$

$$J = \frac{\pi}{32} (d_1^4 - 15 \cdot 2^4) \text{ cm}^4 = \frac{\pi}{32} (d_1^4 - 53500) \text{ cm}^4.$$

$$d_1 = \frac{2J\tau_{\max.}}{T}$$

$$= \frac{2\pi (d_1^4 - 53500) \times 1575}{32 \times 2.987 \times 10^6}$$

即チ

$$d_1 = \frac{103.8}{10^6} (d_1^4 - 53500)$$

$$\therefore d_1^4 - 9640d_1 - 53500 = 0$$

之ヲ解キテ

$$d_1 = 22.9 \text{ cm.}$$

七二、振りノ仕事、

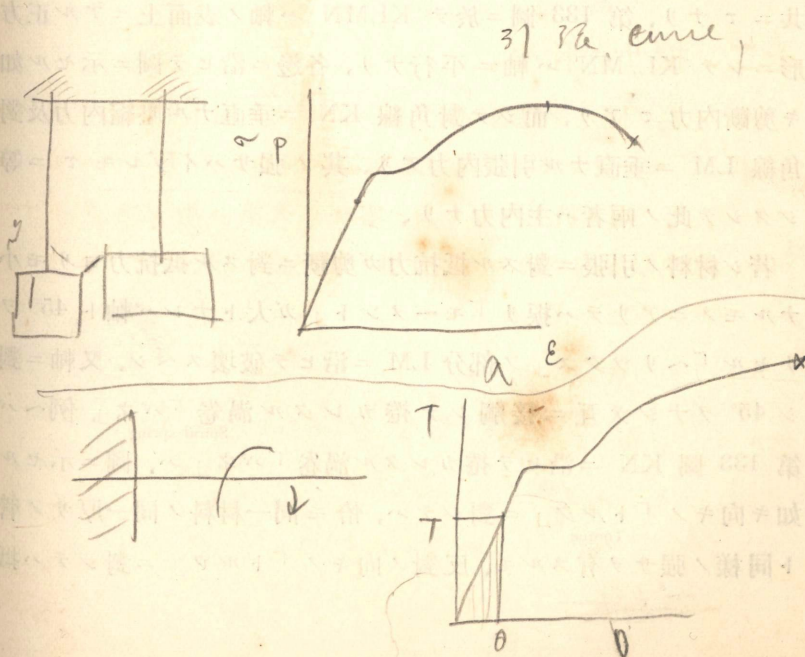
軸ノ一端ヲ固定シ他端ニ於テ軸ニ直角ナル面上ノ偶力ヲ與フルニ、其ノ「モーメント」ヲ零ヨリ次第ニ増加シテ Tニナルモノトスレバ、其ノ端ニ於ケル振レ角ハ零ヨリ次第ニ増シテ θ トナルベシ、弾性限界内ニ於テ此ノ仕事ハ軸全體ニ貯ヘラル「エネルギー」トナル、之ヲ W トスレバ

$$W = \frac{1}{2} T \theta$$

然ルニ

$$\theta = \frac{16 T}{GJ}$$

故ニ



$$W = \frac{lT^2}{2GJ} \dots\dots\dots (6.12)$$

又

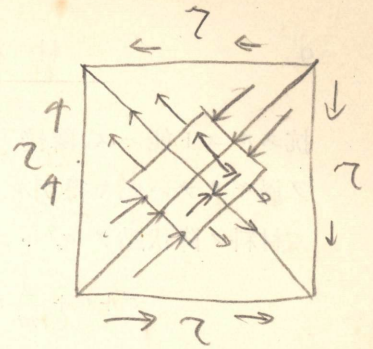
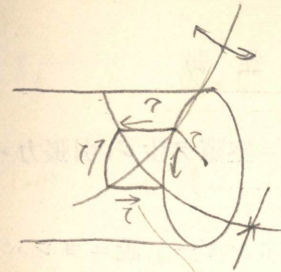
$$\theta = \frac{l\tau_{max.}}{Gr_1}$$

$$\therefore W = \frac{lJ\tau_{max.}^2}{2Gr_1^2} \dots\dots\dots (6.13)$$

七三、振りニ基ヅク主内力、

横断面ガ圓ナル場合、振りヲ受クル軸ノ任意ノ點ニ於ケル内力ハ、軸ニ直角ナル平面上ニ於テ其ノ點ヲ通ズル半径ニ直角ナル方向ノ剪斷内力 τ ト、軸ヲ含ム平面上ニテ軸ニ平行ナル相互内力 σ トヨリ成ル、故ニ主内力面ハ是等ノ剪斷ノ平面ト 45° ヲ以テ交ハリ、主内力ノ一ハ引張内力、他ノ一ハ壓縮内力ニシテ其ノ大サハ共ニ τ ナリ、第 133 圖ニ於テ KLMN ハ軸ノ表面上ニアル正方形ニシテ KL, MN ハ軸ニ平行ナリ、各邊ニ沿ヒテ圖ニ示セル如キ剪斷内力 τ アリ、而シテ對角線 KN ニ垂直ナル壓縮内力及對角線 LM ニ垂直ナル引張内力アリ、其ノ強サハイヅレモ τ ニ等シクシテ此ノ兩者ハ主内力ナリ、

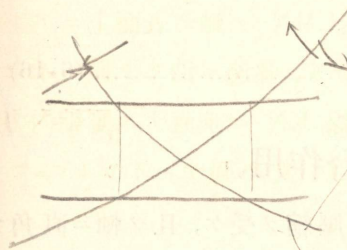
若シ材料ノ引張ニ對スル抵抗力ガ剪斷ニ對スル抵抗力ヨリモ小ナルモノニアリテハ振り「モーメント」ガ大トナレバ軸ト 45° ヲナセル「ヘリックス」ノ部分 LM ニ沿ヒテ破壊スベシ、又軸ニ對シ 45° ヲナシテ互ニ接觸シテ捲カレタル渦卷「バネ」、例ヘバ第 133 圖 KN ニ沿ヒテ捲カレタル渦卷「バネ」ハ、圖ニ示セル如キ向キノ「トルク」ニ對シテハ、恰モ同一材料ノ同一厚サノ管ト同様ノ強サヲ有スルモ、反對ノ向キノ「トルク」ニ對シテハ抵



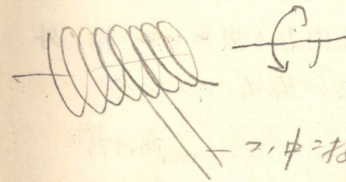
カハ軸ノ任意ノ點ニ於ケル内力ハ、軸ニ直角ナル平面上ニ於テ其ノ點ヲ通ズル半径ニ直角ナル方向ノ剪斷内力 τ ト、軸ヲ含ム平面上ニテ軸ニ平行ナル相互内力 σ トヨリ成ル、故ニ主内力面ハ是等ノ剪斷ノ平面ト 45° ヲ以テ交ハリ、主内力ノ一ハ引張内力、他ノ一ハ壓縮内力ニシテ其ノ大サハ共ニ τ ナリ、第 133 圖ニ於テ KLMN ハ軸ノ表面上ニアル正方形ニシテ KL, MN ハ軸ニ平行ナリ、各邊ニ沿ヒテ圖ニ示セル如キ剪斷内力 τ アリ、而シテ對角線 KN ニ垂直ナル壓縮内力及對角線 LM ニ垂直ナル引張内力アリ、其ノ強サハイヅレモ τ ニ等シクシテ此ノ兩者ハ主内力ナリ、



この場合、 $\downarrow +$ の方向に引張力が生じる。
この場合、 $\downarrow +$ の方向に引張力が生じる。



この面は破壊ス
この compression + 引張破壊ス
この材料は、この材料は、
破壊ス。



この中、軸径元カ τ と σ の力 τ 故 $\sigma = \tau$ 故 $\sigma = \tau$

抗スルコト能ハズ、隣接「コイル」間ニ空隙ヲ生ジ、引張力ハ空隙ヲ過ギリテハ働キ得ザルヲ以テナリ、

材料ノ降伏點ヲ σ_s トス、歪ミ「エネルギー」説ニヨレバ

$$\tau^2 + \tau^2 + \frac{2}{m} \tau^2 = \sigma_s^2$$

$$\therefore \tau = \sigma_s \sqrt{\frac{m}{2(m+1)}} \dots \dots \dots (6.14)$$

$m = \frac{10}{3}$ トスレバ

$$\tau = 0.62\sigma_s$$

又

$$\sigma_s^2 = \frac{m+1}{2m} \frac{d^2 T^2}{J^2}$$

$$\sigma_s = \sqrt{\frac{m+1}{2m}} \frac{d}{J} T \dots \dots \dots (6.15)$$

又最大剪斷内力説ニヨレバ

$$\tau = 0.5\sigma_s \dots \dots \dots (6.16)$$

七四、振りト推力トノ聯合作用、

軸ガ其ノ長サニ沿ヒテ引張又ハ壓縮ヲ受ケ、且ツ軸ニ直角ナル面上ノ振り作用ト同時ニ受クル場合ヲ考フ、今 P ヲ軸ノ方向ノ引張力トシ σ ヲ其ノ爲ニ起リタル引張内力ノ強サトス、軸ノ外半径、内半径ヲ夫々 r_1, r_2 トシ、直径ヲ夫々 d_1, d_2 トスレバ

$$\sigma = \frac{P}{\pi(r_1^2 - r_2^2)} = \frac{4P}{\pi(d_1^2 - d_2^2)} \dots \dots \dots (6.17)$$

實體軸ニツキテ $r_2 = 0, d_2 = 0$ ハト置クベシ、

次ニ振り作用ニヨル最大剪斷内力ハ

$\sigma_1^2 + \sigma_2^2 - \frac{2}{m} \sigma_1 \sigma_2 = \sigma_s^2$ — σ_s : 降伏点 (yield stress)
 $\sigma_1 = \tau, \sigma_2 = -\tau$ 代入スル (6.14) 式ヲ用ル
 m : poisson 率, 多数 metal $= \frac{10}{3}$

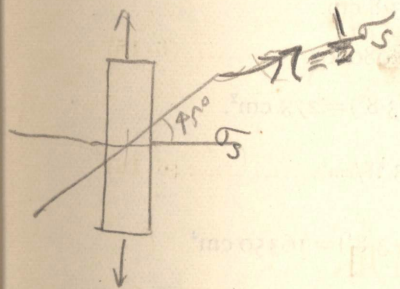
(6.14) ノ 7 (6) ノ 関係ス

$$\sigma_s^2 = \frac{2(m+1)}{m} \tau^2 \quad \tau = (6.8) \text{ 代入}$$

$$C_{max} = \frac{d_1 T}{2J}$$

$$C_{max} = \frac{1}{2} (\sigma_1 - \sigma_2)$$

$$= \frac{1}{2} (\tau + \tau) = \tau = \tau_s = \frac{1}{2} \sigma_s$$

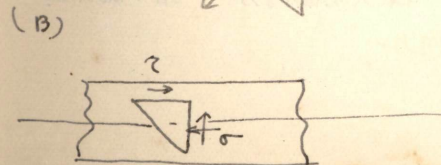
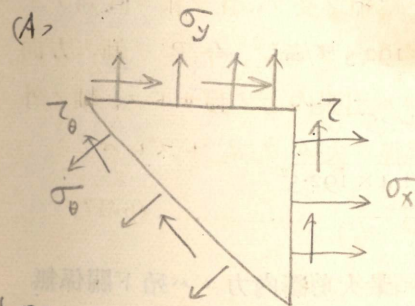


$$\sigma_{1,2} = \frac{1}{2} (\sigma_x + \sigma_y) \pm \frac{1}{2} \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau^2}$$

$$C_{max} = \frac{1}{2} \sqrt{(\sigma_x - \sigma_y)^2 + 4\tau^2} = \frac{1}{2} (\sigma_1 - \sigma_2)$$

(A) (B) ノ 比較後スル

$$\sigma_x = \sigma, \sigma_y = 0$$



$$\tau_{\max.} = \frac{r_1 T}{J} = \frac{d_1 T}{2J} \dots\dots\dots (6.18)$$

又主内力ハ

$$\frac{\sigma}{2} \pm \frac{1}{2} \sqrt{\sigma^2 + 4\tau_{\max.}^2} \dots\dots\dots (6.19)$$

而シテ軸ノ最大剪斷内力ハ

$$\frac{1}{2} \sqrt{\sigma^2 + 4\tau_{\max.}^2} \dots\dots\dots (6.20)$$

例題、外直径 20.3 cm., 内直径 7.6 cm. ノ鋼軸アリ、3097 kg. m. ノ振り「モーメント」ト 5080 ノ推力トヲ受ク、最大剪斷内力ヲ求ム、

$$d_1 = 20.3 \text{ cm.} \quad r_1 = 10.15 \text{ cm.}$$

$$d_2 = 7.6 \text{ cm.} \quad r_2 = 3.8 \text{ cm.}$$

$$T = 3097 \text{ kg. m.} \quad P = 5080 \text{ kg.}$$

$$F = \pi(r_1^2 - r_2^2) = \pi(10.15^2 - 3.8^2) = 278 \text{ cm}^2.$$

$$\sigma = \frac{P}{F} = -\frac{5080}{278} = -18.3 \text{ kg/cm}^2$$

$$J = \frac{\pi}{2}(r_1^4 - r_2^4) = \frac{\pi}{2}(10.15^4 - 3.8^4) = 16350 \text{ cm}^4$$

振りノミニ基ク所ノ最大剪斷内力ヲ求ムレバ

$$\tau = \frac{r_1 T}{J} = \frac{10.15 \times 309700}{16350} = 192.5 \text{ kg/cm}^2$$

σ ヲ考慮シテ最大剪斷内力ヲ求ムレバ

$$\frac{1}{2} \sqrt{\sigma^2 + 4\tau^2} = \frac{1}{2} \sqrt{18.3^2 + 4 \times 192.5^2}$$

$$\doteq 192.5$$

此ノ場合ニハ σ ヲ計算ニ入ルルモ最大剪斷内力ニハ殆ド關係無シ、

$$J = \frac{\pi}{2}(r_1^4 - r_2^4) = \frac{\pi}{32}(d_1^4 - d_2^4)$$

$$\tau = \frac{r_1 T}{J} = \frac{d_1 T}{2J}$$

七五、振りト曲ゲトノ聯合作用、

此ノ場合ニハ

- (i) 振りニ基ヅク剪斷内力、
- (ii) 曲ゲニ基ヅク引張内力ト壓縮内力、
- (iii) 曲ゲニ基ヅク剪斷内力、

ヲ綜合セルモノヲ考ヘ主内力ヲ求メザル可ラズ、(i)ハ半徑ニ比例スルガ故ニ中心ニ於テハ零ニシテ表面ニ於テ最大ナリ、(ii)ハ曲ゲガ鉛直面内ニ起ルモノトスレバ、最高位並ニ最低位ノ部分ニ於テ最大ニシテ、凹面ノ側ニテハ壓縮内力、凸面ノ側ニテハ引張内力ナリ、中立面ニテハ零ナリ、(iii)ハ中立面ニテ最大ニシテ上下外側ニテハ零ナリ、軸ガ甚シク短キ場合ノ外ハ多クノ場合ニ於テ (iii)ハ考ヘザルモ可ナリ、

d ヲ直径トス、横斷面ノ慣性「モーメント」 I ト極慣性「モーメント」 J トノ間ニ此ノ場合ニハ次ノ關係アリ、

$$2I = J$$

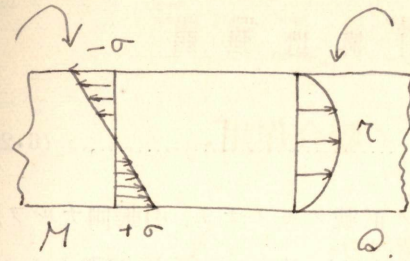
屈撓面ハ鉛直面ナリトシ、下方ヘ屈撓セルモノトス、「トルク」ヲ T トシ一様ナル曲ゲ「モーメント」ヲ M トス、軸ノ最高位並ニ最低位ノ部分ノ受クル内力ハ

$$\sigma = \pm \frac{Md}{2I} = \pm \frac{Md}{J} \dots\dots\dots (6.21)$$

振り作用ニ基デク最大剪斷内力ハ表面ニアリテ

$$\tau = \frac{Td}{2J} = \frac{Td}{4I} \dots\dots\dots (6.22)$$

軸ノ最低位ノ一點ニ於ケル主内力ハ



普通の場合ニハ $M = \int \sigma r \cdot dA$ ト $Q = \int \tau r \cdot dA$ ト同様に
 $\tau = \frac{M}{J} r$ ナリ

$$\frac{\sigma}{2} \pm \sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2} \dots\dots\dots (6.23)$$

此ノ式中ノ σ ハ (6.21) ノ正號ノモノナリ、引張側ナルヲ以テナリ、(6.23) ノ中ノ一ツハ引張内力、他ノ一ツハ壓縮内力ナリ、同様ニシテ軸ノ最高位ノ一點ニツキテ主内力ヲ得ベシ、其ノ式ハ (6.23) ト同形ナルモ σ ハ (6.21) ノ中ノ負號ノモノナリ、是ニ由テ引張又ハ壓縮内力ノ數値ノ最大ナルモノヲ σ_{max} トスレバ

$$\begin{aligned} \sigma_{max} &= \frac{Md}{4I} + \sqrt{\frac{M^2d^2}{16I^2} + \frac{T^2d^2}{16I^2}} \\ &= \frac{d}{4I} [M + \sqrt{M^2 + T^2}] \dots\dots\dots (6.24) \end{aligned}$$

又ハ

$$\begin{aligned} \sigma_{max} &= \frac{Md}{2J} + \sqrt{\frac{M^2d^2}{4J^2} + \frac{T^2d^2}{4J^2}} \\ &= \frac{d}{2J} [M + \sqrt{M^2 + T^2}] \dots\dots\dots (6.25) \end{aligned}$$

(6.24) ト (6.25) トハ次ノ形ニ書き換フルヲ得、

$$\begin{aligned} \sigma_{max} &= \left[\frac{M}{2} + \frac{1}{2} \sqrt{M^2 + T^2} \right] \frac{d}{2I} \\ &= \frac{d}{2I} M' \\ \sigma_{max} &= \frac{d}{2J} [M + \sqrt{M^2 + T^2}] \\ &= \frac{d}{2J} T' \end{aligned}$$

但シ

$$M' = \frac{1}{2} [M + \sqrt{M^2 + T^2}] \dots\dots\dots (6.26)$$

Handwritten notes and diagrams on the right page:

$$\sigma = -\frac{\sigma}{2} - \sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2}$$

$$-\frac{\sigma}{2} = \sqrt{\dots}$$

Handwritten notes and diagrams on the right page:

$$\sigma \pm \frac{Md}{2J}$$

$$\tau = \frac{T}{2J}$$

$$T' = M + \sqrt{M^2 + T^2} \dots\dots\dots (6.27)$$

M' ヲ相當曲ゲ「モーメント」ト云ヒ、T' ヲ相當振り「モーメント」ト云フ、
Equivalent bending moment Equivalent twisting moment

$\sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2}$ ハ $\frac{\sigma}{2}$ ヨリ大ナルヲ以テ (6.23) ノ與フルニツノ主内カハ異符號ナリ、破損ニ關スル各説ニツキ實驗セラレタルモノヲ考フルニニツノ主内カハ異符號ノ場合ニハ最大主内カ説ハ適切ナラズ、少クトモ延性ニ富ム材料ニツキテハ此ノ説ヲ適用スルコトハ安全ナラズ、最大剪斷内カ説カ或ハ至ミ「エネルギー」説ニヨルヲ可トス、最大剪斷内カヲ求ムレバ

$$\begin{aligned} \sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2} &= \frac{d}{2J} \sqrt{M^2 + T^2} \dots\dots\dots (6.28) \\ &= \frac{d}{2J} T'' \end{aligned}$$

但シ $T'' = \sqrt{M^2 + T^2} \dots\dots\dots (6.29)$

T'' ハ最大剪斷内カ説ヨリ考へタル相當振り「モーメント」ナリ、至ミ「エネルギー」説ヲ採用スレバ

$$\sigma_1^2 + \sigma_2^2 - \frac{2}{m} \sigma_1 \sigma_2 = \sigma_s^2$$

但シ σ_1, σ_2 ハ主内カ、 σ_s ハ材料ノ降伏點ナリ、

$$\sigma_1 = \frac{\sigma}{2} + \sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2}$$

$$\sigma_2 = \frac{\sigma}{2} - \sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2}$$

是等ノ値ヲ上式ニ入レテ

$$\sigma^2 + \frac{2(m+1)}{m} \tau^2 = \sigma_s^2$$

然ルニ

$$\sigma_s = \sqrt{\frac{m+1}{2m}} \frac{d}{J} T \dots\dots = \sigma_s = \frac{d^2}{JT^2} \frac{m+1}{2m} T'''^2$$

$$\sigma = \frac{Md}{2I}, \quad \tau = \frac{Td}{4I}$$

$$\therefore \frac{d^2}{4I^2} \left(M^2 + \frac{m+1}{2m} T^2 \right) = \sigma_s^2$$

至ミ「エネルギー」説ニヨリ考ヘラルル相等振り「モーメント」ヲ T''' トスレバ

$$\frac{d^2}{4I^2} \left(M^2 + \frac{m+1}{2m} T^2 \right) = \frac{d^2}{4I^2} \frac{m+1}{2m} T'''^2$$

$$\therefore T''' = \sqrt{\frac{2m}{m+1} M^2 + T^2} \dots\dots\dots (6.30)$$

T''' ヲ T'' ヨリ稍大ナリ、設計ノ安全ヨリ云ヘバ T'' ヲ採用スルヲ可トスベシ、

例題、直径 10 cm. ノ軟鋼軸アリ、155 kg. m. ノ「トルク」ト 103 kg. m. ノ一様ナル曲ゲ「モーメント」トヲ受ク、主内力ト最大剪断内力トヲ求メ、尙最大主内力説、至ミ「エネルギー」説並ニ最大剪断内力説ニヨリテ相当振り「モーメント」ヲ求ム、

$d = 10 \text{ cm.}$

$T = 155 \text{ kg. m.} = 15500 \text{ kg. cm.}$

$M = 103 \text{ kg. m.} = 10300 \text{ kg. cm.}$

$I = \frac{\pi}{64} d^4 = \frac{\pi}{64} \times 10^4 = 156.3\pi \text{ cm}^4.$

$J = 2I = 312.6\pi \text{ cm}^4.$

$\sigma = \pm \frac{Md}{2I} = \pm \frac{10300 \times 10}{312.6\pi} = \pm 104.8 \text{ kg/cm}^2$

$\tau = \frac{dT}{2J} = \frac{10 \times 15500}{2 \times 312.6\pi} = 79 \text{ kg/cm}^2$

主内力ヲ求ムレバ

① $\sigma_{max} = \frac{d}{2J} T'$ $T' = M + \sqrt{M^2 + T^2}$

之ヲ降伏点附近迄利用シ得ル。

② 最大剪断内力説

$\tau_{max} = \frac{d}{2J} T''$ $T'' = \sqrt{M^2 + T^2}$

Takenaka, Kojima, Wakamaili. (B & S), Sijulace, Guya.
Nagaya, Enachu, Sasokan, Motitenki,
Toitoli, Masuki,

③

28 逆局 → 逆局 → 逆局
満波 瀬戸
29. 一巻九七局 30日 29日夜 帰宅



Handwritten notes and scribbles on the right page, including a large scribble in the middle and some text at the bottom.

$$\sigma = \frac{Md}{2I}, \quad \tau = \frac{Td}{4I}$$

$$\frac{d^2}{2} (M^2 + \frac{m+1}{2} T^2) = \sigma_s^2$$

岐阜縣大井町
大井ダム湖遊船株式會社

Sigulase, Uya, Nagoya, Takemaka, Kojima.
Enathu, Allosokai,

8	Th. S.	
7	Th. F.	dosokai. +
6	Th. Th.	Koide.
5	Th. Tu.	Teitar, Takenami shrine → keitw. → 4.
4	Th. O.	?
3	Th.	Nagoya.
2	Th. Ni.	Uya. Osone → Seto → <u>Fulimoto</u> → obara. → Uya. Mizunami → ogasaki → nigi → Uya.
1	Th. F.	go to Sigulase, (B.) Yamara matute. Koide <u>Maenki with my father at night.</u>
	Th. Sa.	motuteking from five hours. mist. to Takemakas and Kojima, Nakanile (B. & S.)
	Th. Si.	

$$\textcircled{1} \quad \sigma_{\max} = \frac{d}{2J} T' \quad T' = M + \sqrt{M^2 + T^2}$$

↓
之ヲ 降伏点附近迄 利用し得ル。

② 最大剪断内力說

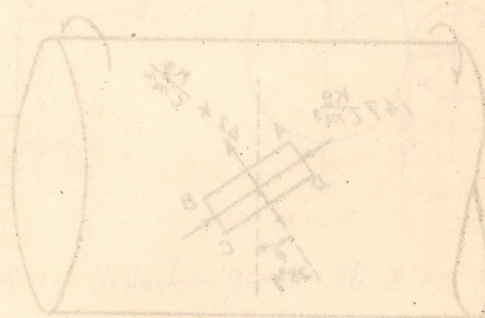
$$\tau_{\max} = \frac{d}{2J} T'' \quad T'' = \sqrt{M^2 + T^2}$$

T_{\max} — τ_s (降伏点) 迄用い得ル。

$$\tau_s = \left(\frac{1}{2} \sigma_s\right) = \frac{d}{2J} T''$$

③ strain energy 說.

$$\sigma_s = \sqrt{\frac{m+1}{2m}} \frac{d}{J} T''' \quad T''' = \sqrt{\frac{2m}{m+1}} M^2 + T^2$$



$$\begin{aligned} \frac{1}{2}\sigma \pm \sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2} &= \frac{1}{2} \times 104.8 \pm \sqrt{\frac{104.8^2}{4} + 79^2} \\ &= 52.4 \pm \sqrt{2740 + 6250} \\ &= 52.4 \pm \sqrt{8990} \\ &= 52.4 \pm 94.8 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \therefore \sigma_1 &= 52.4 + 94.8 = 147.2 \text{ kg/cm}^2. \\ \sigma_2 &= 52.4 - 94.8 = -42.4 \text{ kg/cm}^2. \end{aligned}$$

最大剪断内力 = $\sqrt{\frac{\sigma^2}{4} + \tau^2} = 94.8 \text{ kg/cm}^2$

横断面ト主内力面トノ間ノ角ヲ求ムレバ

$$\tan 2\theta = \frac{2\tau}{\sigma} = \frac{2 \times 79}{104.8} = 1.508$$

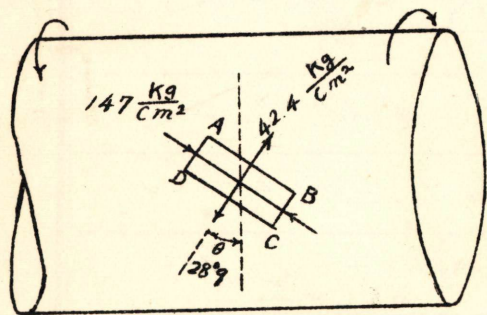
$$2\theta = 56^\circ 18', \quad \theta = 28^\circ 9'$$

又ハ

$$2\theta = 236^\circ 18', \quad \theta = 118^\circ 9'$$

消略

此ノ圖ハ軸ハ鉛直面ニテ下方ヘ屈撓セルモノトシテ上ヨリ見下



シタル圖ナリ、從テ圖ニ示セル ABCDニ於テ直接内力ノ數値ノ大ナルモノハ壓縮内力ニシテ小ナルモノハ引張内力ナリ、下方ニアル反對表面ニ於テハ數値

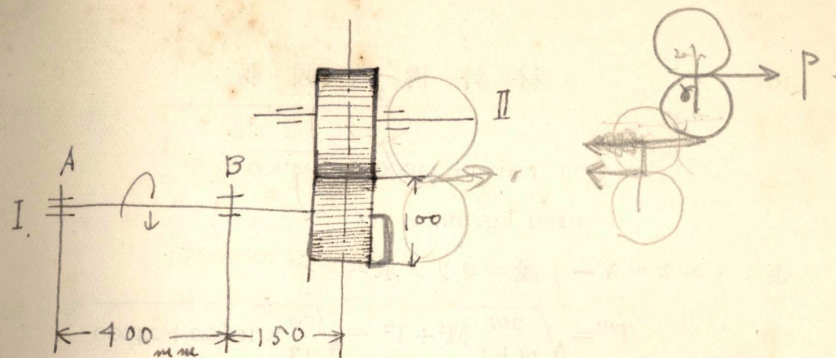
ノ大ナルモノハ引張内力、小ナルモノハ壓縮内力トナル、

最大剪断内力説ニヨリ相當捩リ「モーメント」ヲ求ムレバ

$$T'' = \sqrt{M^2 + T^2} = \sqrt{103^2 + 155^2}$$

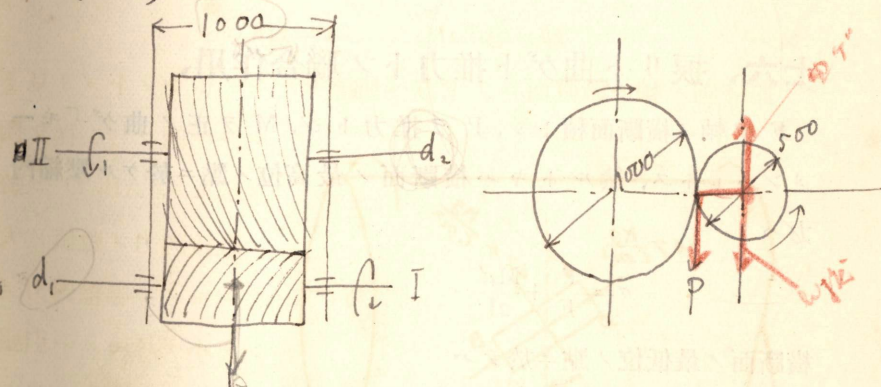
[問題 16.]

P.77ノ設計公式ニテ解スル



電動機 A, Bノ動力ハ軸 Iノ一端ニ取着ケラレタル歯車ニテ軸 IIニ傳達サレタス。圖ニ示スル今電動機ハ 15 HP 1200 R.P.M.ニテ矢ノ方向ニ廻転スルニテス。軸 Iノ直径ヲ決定セヨ。但シ $\sigma_a' = 700 \text{ kg/cm}^2$ $\tau_a' = 560 \text{ kg/cm}^2$ トス。

[問題 17]



H = 1200 HPヲ傳フ Reduction gearノ转速ハ $n_1 = 600 \text{ R.P.M.}$ トシテ d_1 及 d_2 ヲ求ム。但シ $\sigma_a' = 700 \text{ kg/cm}^2$ $\tau_a' = 560 \text{ kg/cm}^2$ トシテ自任ニテサレタス。

$$d_1 = 4. \dots$$

$$= \sqrt{10600 + 24000} = \sqrt{34600}$$

$$= 186 \text{ kg. m.}$$

歪ミ「エネルギー」説ニヨリテ求ムレバ

$$T''' = \sqrt{\frac{2m}{m+1} M^2 + T^2} = \sqrt{\frac{20}{13} \times 10600 + 24000}$$

$$= \sqrt{16300 + 24000} = \sqrt{40300}$$

$$= 201$$

T'' ト T''' ハ少シク差アリ、然ルニ最大主内力ニヨレバ相當振り

「モーメント」ハ

$$T' = M + \sqrt{M^2 + T^2}$$

$$= 103 + 186 = 289$$

T'' , T''' ニ比シテ甚ダ大ナリ、

七六、振りト曲ゲト推力トノ聯合作用、

F ヲ軸ノ横斷面積トシ、P ヲ推力トシ、M ヲ正ノ曲ゲ「モーメント」トス、然ルトキハ横斷面ノ最高位ノ點ニ於ケル壓縮内力ハ

$$\sigma = \frac{P}{F} + \frac{Md}{2I}$$

横斷面ノ最低位ノ點ニ於テハ

$$\sigma = \frac{P}{F} - \frac{Md}{2I}$$

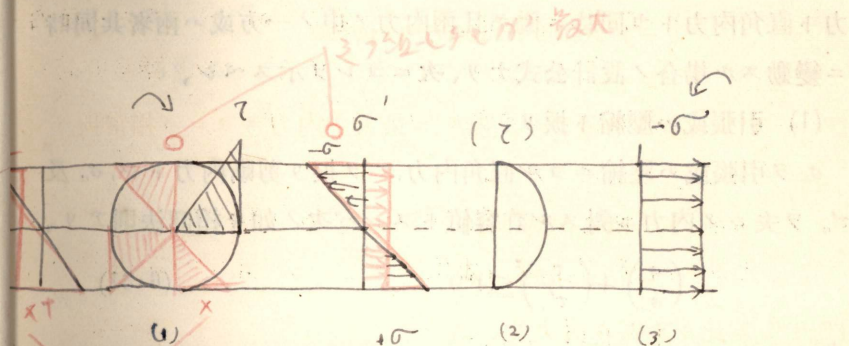
是ヨリシテ更ニ主内力ヲ求ムル手續ハ前節ノ場合ト同様ナリ、

$$CD \quad \sigma_s = \frac{d}{2J} T' \quad \text{289}$$

$$(2) \quad \sigma_s = \frac{d}{2J} (2T'') \quad \text{186}$$

$$(3) \quad \sigma_s = \frac{d}{2J} \left(2\sqrt{\frac{m+1}{2m}} T''' \right) = \frac{d}{2J} (1.612 T''') \quad \text{201}$$

此ハ(3)ノ値ガ安全ト云フ得ル。



之ヲ組合テ其ノ最大。

七七、結合内力ノ問題ト設計公式、

松村博士ハ彈性破損ニ關シテーツノ學說ヲ立テ、結合内力ノ問題ニ關シテ内力ガ靜的並ニ動的ノ場合ニ就キ精密ナル設計公式ヲ與ヘラレタリ、我々ニ最モ必要ナルハ通常ノ軸ニ於テ振り剪斷内力ト直角内力トガ同時ニ働キ且兩内力ノ中ノ一方或ハ兩者共同時ニ變動スル場合ノ設計公式ナリ、次ニコレヲ示スベシ、

(1) 引張或ハ壓縮ト振り、

σ ヲ引張或ハ壓縮ニヨル直角内力、 τ ヲ振り剪斷内力トシ、 σ_a 及 τ'_a ヲ夫々ノ内力ニ對スル許容値トスレバ次ノ如キ楕圓法則アリ、

$$\left(\frac{\sigma}{\sigma_a}\right)^2 + \left(\frac{\tau}{\tau'_a}\right)^2 \leq 1 \dots\dots\dots (6.31)$$

或ハ

$$\left. \begin{array}{l} \sigma_a \geq \sqrt{\sigma^2 + 4\alpha^2 \tau^2} \\ \alpha = \frac{\sigma_a}{2\tau'_a} \end{array} \right\} \dots\dots\dots (6.31')$$

(2) 曲ゲト振り、

曲ゲ内力 σ ト振り剪斷内力 τ トノ關係モ (6.31') ト同様ナリ、即チ σ'_a ヲ許容曲ゲ内力トスレバ

$$\left. \begin{array}{l} \sigma'_a \geq \sqrt{\sigma^2 + 4\alpha^2 \tau^2} \\ \alpha = \frac{\sigma'_a}{2\tau'_a} \end{array} \right\} \dots\dots\dots (6.32)$$

今曲ゲ「モーメント」M ト振り「モーメント」T トガ直径 d ナル軸ニ働クトキハ

$$\sigma = \frac{M}{\frac{\pi}{32}d^3}, \quad \tau = \frac{T}{\frac{\pi}{16}d^3}$$

Bach' 公式

$$M_e = 0.35M + 0.65\sqrt{M^2 + (\alpha_0 T)^2}$$

$$\alpha = \frac{\sigma'_a}{1.3\tau'_a}$$

$$\sigma'_a = \frac{M_e}{Z}$$

最大主歪說ヲ出發点トシテ本ノ公式「テ」アル、現在「テ」之ヲ用ケイカ可「テ」アル、之「最大主歪說」ヨリ本「歪」シ「ナ」ル「故」ニ不可「テ」アル、根本カ「ヨク」ナ「イ」、現在「各」種「ノ」書「ニ」之「カ」採「用」サ「レ」アリ、

ナルヲ以テ此等ノ値ヲ式 (6.32) ニ代入スレバ

$$\left. \begin{aligned} & \frac{\pi}{32} d^3 \sigma'_a \geq \sqrt{M^2 + \alpha^2 T^2} \\ \text{但シ } & a = \frac{\sigma'_a}{2\tau'_a} \end{aligned} \right\} \dots\dots\dots (6.32')$$

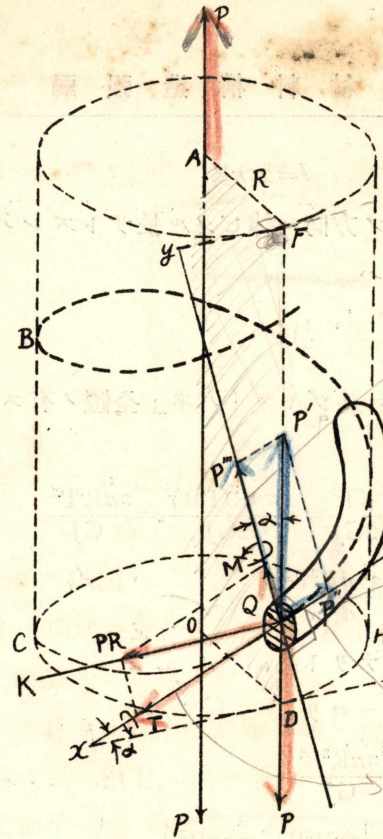
七八、「バネ」、

第 134 圖ニ於テ「コイル」ノ半徑 R ナル蔓卷「バネ」ノ軸ニ沿ヒ P ナル負荷ヲ與ヘタリトス、此ノ P ヲ偶力 PR ト他ノ一力 P' トニテ置キ換フルヲ得、P' ハ鋼線ノ斷面ノ中心ニ交ハリ、「バネ」ノ軸ニ平行ニシテ、大サ並ニ方向ハ負荷 P ト同一ナリ、P' ヲ更ニ分解シテ鋼線ノ軸ニ直角ナル斷面上ノモノ、即チ其ノ面上ノ剪斷力ト此ノ面ニ垂直ナル力トニナスコトヲ得、P' ノ是等ノ作用ハ偶力 PR ヨリ來ル所ノ作用ニ比シテ通常ハ之ヲ棄却ス、次ニ偶力 PR ハ、「バネ」ノ軸ヲ含ム平面上ニ存在スルモノナルガ、之ヲ亦二ツニ分解スルヲ得、其ノ一ツハ鋼線ノ横斷面上ニアル偶力ニシテ其ノ斷面ニ於テハ振り「モーメント」トシテ作用スルモノナリ、他ノ一ツハ曲ゲ「モーメント」トシテ鋼線ノ曲率ヲ變ゼントスル所ノモノナリ、

「コイル」ガ密接シテ捲カレタル蔓卷「バネ」ハ、「バネ」ノ軸ガ「コイル」ノ面ニ垂直ナリト見做シ得ルモノナリ、斯クノ如キ「バネ」ニ於テハ PR ハ單ニ鋼線ノ横斷面ニ於テ振り「モーメント」ヲ作用スルモノニシテ曲ゲ「モーメント」トシテノ作用ハ之ヲ無視シテ可ナリ、

第 135 圖ハ密接シテ捲カレタル蔓卷「バネ」ヲ示セルモノナリ、「コイル」ノ數ヲル トシ鋼線ノ長サヲノトスレバ

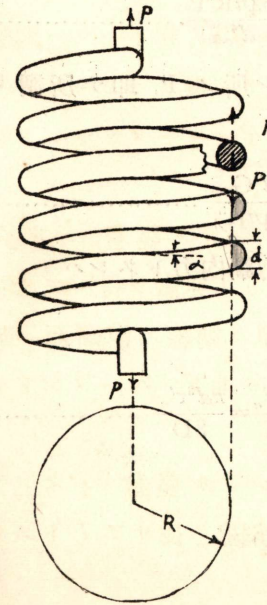
↑R=偶力 P'=力T=力



軸に垂直な断面=力
剪断力

第 134 圖

Bending moment = +M
T = torque = +T
平面上, moment = +M



spring の長さは l = 2πRn
ハ α = +1 + 1) = +1 + 1

第 135 圖 $l = 2\pi R n$

(6.12) $W = \frac{l T^2}{2gJ}$

$$l = 2\pi nR$$

δヲ「バネ」ノ軸ノ方向ニ伸ビタル長サトスレバ負荷 Pニヨリテ爲サレタル仕事ハ

$$\frac{1}{2}P\delta$$

ナリ、然ルニ振りニ基ヅキテ「バネ」全體ノ有スル歪ミ「エネルギー」ハ

$$U = \frac{lT^2}{2GJ} = \frac{2\pi nR(PR)^2}{2GJ} = \frac{\pi nR^3P^2}{GJ}$$

$$= \frac{32nR^3P^2}{d^4G}$$

但シノ横断面ハ圓ナリトス、

上ノ二ツノ關係ニヨリ

$$\frac{1}{2}P\delta = \frac{\pi nR^3P^2}{GJ}$$

$$\therefore \delta = \frac{2\pi nR^3P}{GJ} = \frac{64nR^3P}{d^4G} \dots\dots\dots (6.33)$$

δ=1ト置ケバ之ニ相當スル所ノ P、即チ所謂「バネ」ノ剛サ
Stiffness
ヲ得、

$$\text{剛サ} = \frac{GJ}{2\pi nR^3} = \frac{d^4G}{64nR^3} \dots\dots\dots (6.34)$$

τ_aヲ材料ニ許サルベキ最大剪斷内カトスレバ

$$\tau'_a = \frac{Td}{2J} = \frac{PRd}{2J}$$

$$\therefore P = \frac{2J\tau'_a}{Rd} = \frac{\pi d^3\tau'_a}{16R} = \frac{\pi d^3\tau'_a}{8D} \dots\dots\dots (6.35)$$

但シ D=2R ナリ、

又

$$\delta = \frac{64nR^3P}{d^4G}$$

G: 横弾性係数

$$\text{剛サ} = \frac{d^4G}{64nR^3}$$

64nR^3P
P = 剛サ × δ

第七章

構造強弱

✓ 七九、平衡ノ根本原則、

一ツノ構造物ガ外力ノ作用ヲ受ケテ平衡ヲ保ツモノトスレバ是等外力（反力ヲ含ム）ノ間ニハ次ノ三ツノ平衡條件ガ成立セザルベカラズ、

(1) 是等ノ外力ノ垂直分力ノ總和ハ零ニ等シ、即チ

$$\sum V = 0$$

(2) 是等ノ外力ノ水平分力ノ總和ハ零ニ等シ、即チ

$$\sum H = 0$$

(3) 是等ノ力ノ作用面内ニアル任意ノ點ニ關スル是等ノ力ノ「モーメント」ノ總和ハ零ニ等シ、即チ

$$\sum M = 0$$

構造物全體トシテ此ノ三條件ガ成立スルト同時ニ其ノ結構内ノ任意ノ一點、例ヘバ接合點ニ就キテモ亦同様ニ其ノ接合點ニ働ク外力ト其ノ接合點ニ集マル部材ニ働ク力（本章ニテハコレヲ便宜上應力ト呼ブコトトス）トノ間ニ此ノ三ツノ平衡條件ガ成立スベク、更ニ平衡ニアル構造物ヲ任意斷面ニテ切斷シテ考フレバ其ノ斷面ノ左右何レノ側ノ部分ニ就イテ考フルモ其ノ側ノ構造物ニ働ク外力ト其ノ斷面ニテ切ラレタル部材ノ應力トノ間ニ同様ノ三條



比
の
節
に
用

件ガ成立スベキナリ、若シ此ノ條件ガ成立セザレバ前述ノ接合點ノ場合ナラバ此ノ接合點ガ移動スル如キ不都合ヲ生ズベク、又斷面ニ就イテ考フレバ其ノ切斷セラレタル構造物ノ片側ガ移動シ又ハ回轉スベク、斯クノ如キ事ナク平衡ニ存在スル爲ニハ此ノ三條件ガ成立セザルベカラズ、今此ノ原則ヲ説明スル爲ニ第 136 圖ヲ採リテ考フルニ圖示ノ橋梁結構全體ニ就イテ平衡條件ヲ示セバ

$$\sum V = A + B - P_1 - P_2 - P_3 - P_4 = 0$$

$$\sum H = 0$$

及「モーメント」ノ任意中心ヲ支點 Bニ採リ此ノ Bニ對スル外力ノ「モーメント」ヲ計算シ

$$\sum M = Al - P_1 b_1 - P_2 b_2 - P_3 b_3 - P_4 b_4 = 0$$

コレガ平衡ノ三條件ナリ、

次ニ接合點ニ於ケル平衡ノ條件ヲ示ス例トシテ前掲結構ヲ採リ、其ノ接合點(支點) Aニ作用スル部材應力ト外力トノ間ノ平衡ヲ考ヘンニ第 137 圖ニ示ス如ク反力 A、部材應力 S_1 、及 S_2 ノ三力ガ存在スルヲ以テ平衡條件ハ

$$\sum V = A + S_1 \cos \varphi = 0$$

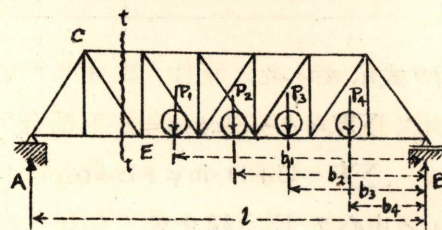
此ノ式ヲ立ツル時ニハ應力ハ正負何レトモ不明ナルヲ以テ便宜上假ニ正ト假定シテ式ヲ立テタリ、同様ニ

$$\sum H = S_1 \sin \varphi + S_2 = 0$$

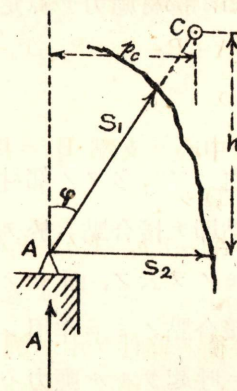
Cニ對スル「モーメント」ヲ採リ

$$\sum M = Ap_c - S_2 l = 0$$

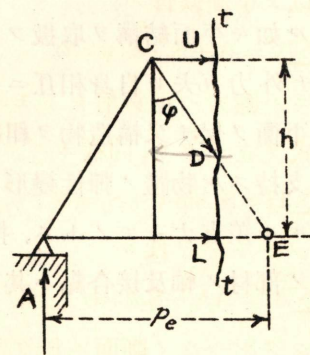
次ニ任意ニ假定シタル一ツノ斷面ニ於ケル平衡條件ヲ説明スル例トシテ第 138 圖ニ於テ tt ナル斷面ヲ假定スレバ其ノ左右何レノ側ヲ考フルモ上述三條件ガ成立セザルベカラズ、假ニ其ノ左側



第136圖



第137圖



第138圖

ニ於ケル平衡ヲ式示スレバ

$$\sum V = A - D \cos \varphi = 0$$

$$\sum H = U + D \sin \varphi + L = 0$$

「モーメント」ノ中心ヲ E ニ採レバ

$$\sum M = A \rho_e + U h = 0$$

以上立テタル數式ハ未知ノ部材應力ヲ算定スルニ充分ナリ、

八〇、平面結構、

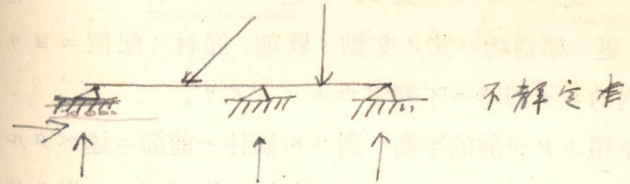
Plane framed structure
 平面結構トハ一平面内ニアル多クノ部材ノ結合體ニシテ其ノ部材ノ軸ハ其ノ部材ノ交點即チ接合點ニ於テ摩擦ナキ「ピン」ニヨリテ結合セラルル如キモノヲ云フ、而シテスクノ如キ平面結構ニ働ク總テノ外力ガ其ノ接合點ノミニ作用シテ居ルモノト假定スレバ其ノ場合ニ此ノ部材ニ呼起サルル應力ハ總テ其ノ軸ノ方向ニ沿フ應力從ツテ直角内力ノミニシテ引張内力カ、壓縮内力カノ二ツヲ出ヅルコトナシ、而シテ此ノ結構ノ總テノ部材ノ軸及外力ガ何レモ同一平面内ニアル如キ平面結構ヲ取扱フニ際シ次ノ如キ假定ヲナスモノトス、即チ外力ガ夫レ自身相互ニ平衡ニアリ同時ニ又外力ト内應力トニテ平衡ヲ保チ又構造物ヲ組織スル材料ノ彈性變形並ニ其ノ構造物ヲ支持スル物體ノ彈性變形ハ何レモ極メテ小ナルヲ以テ之ヲ無視スルモ差支ナキモノトス、換言スレバ結構ガ荷重ヲ受ケタル後モ其ノ部材ノ軸及接合點ハ其ノ位置ヲ變ゼザルモノト假定ス、

一般ニ構造物ハ之ヲ靜力的ニ考ヘテ 靜 定 ト

Statically determinate

不 靜 定 トニ區別スルコトヲ得、構造物ガ單構ニシテ

Statically indeterminate



(靜定ノ定義)

一般ニ靜力的ニ考ヘテ任意ノ桁ノ及カク
決定スルニ平衡ノ三條件

$$\sum H = 0 \quad \sum V = 0 \quad \sum M = 0$$

カ存スル以テ未知數カ三個トシテ之ニ靜力的ニ決定セラル。若レ三個ヨリ多クノ未知數カ存在スルヤコノ三條件ノミニテ不静定ナリ。

三個ヨリ多クノ未知數カ有ル beam ヲ不靜定桁ト云ヒ三個以下カニテ靜定桁トイフ

一般ニ桁ノ及カテ靜定ト不靜定トス

其ノ反力條件ガ三個ヨリモ多キ場合ニハ其ノ構造物ハ 外 的
Externally
 不 靜 定 ナリト云ヒ、又反力ハ靜定ナリトスルモ其ノ
statically indeterminate
 結構ガ靜的平衡ニ對シテ必要以上ノ部材ヲ有スル時ハ 内 的
Internally
 不 靜 定 ナリト云ヒ、 冗 材
Redundant member
 ヲ有スル
 ヲ意味ス、更ニ構造物ハ其ノ支點ノ狀態、部材ノ配置ニヨリテハ
 外 的ニモ内 的ニモ同時ニ不靜定ナルコトアリ、

構造物全體トシテ靜的平衡ニ對スル條件ハ前節ニ述ベタル如ク
 $\sum H=0, \sum V=0, \sum M=0$ ノ三條件ヲ出デザルヲ以テ此ノ三
 條件ノミヲ以テシテ外力(支點反力ノ如キ)ガ求メ得ラザレバ
 外 的 不 靜 定 トナリ、更ニ此ノ三條件ニテハ其ノ部材ノ應力ガ求メ
 得ラザル如ク部材ガ配置サレタル場合ハ内 的 不 靜 定 トナル、次
 ニ外力ノミガ平衡ニ無キ時又ハ外力ト部材應力トノ間ニモ平衡ノ
 成立セザル時アリトセバ其ノ場合此ノ構造物ハ 不 安 定
Statically unstable or
 靜 定 ナリト云フ、
statically underdeterminate

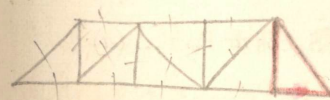
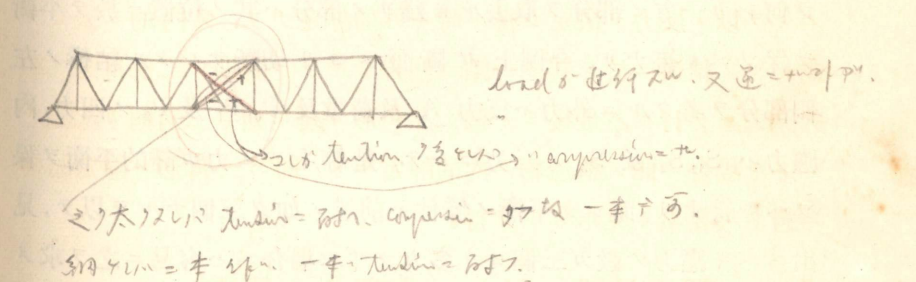
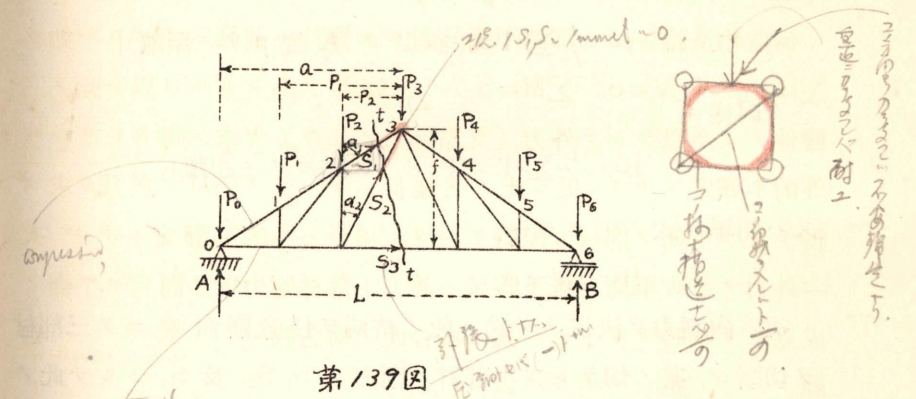
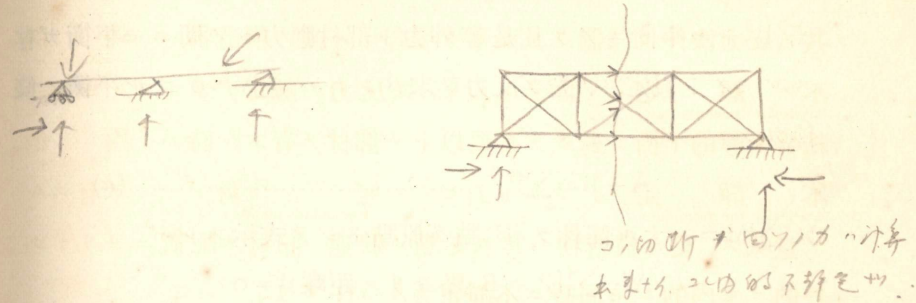
以上ノ説明ヨリ明ラカナル如ク構造物ガ若シ靜的平衡ノ三條件
 ノミヲ以テ反力ヲ決定シ得ル時ハ外 的 靜 定 ナリ、又内 的ニ云ヒテ
 或一ツノ結構ニ於テ其ノ一點ニ結合サルル一對即チ二部材宛ヲ順
 次除去シテ行ケバ最後ニ一 個ノ三角形ガ殘ル如ク三角網ガ配置サ
 レタル場合ハ此ノ構造物ハ内 的 靜 定 ナリ、即チ三角形ハ靜定結構
 ニ對スル要素ト見ルコトヲ得、

八一、靜定結構ニ於ケル内應力ノ算定、

(1) 切斷法、 Method of section

第 139 圖ニ示ス小屋組アリテ各接合點ニ荷重 P_0, P_1, \dots, P_6 , ヲ
Roof truss
 有スルモノトス、此ノ場合ノ荷重即チ P_0, P_1, \dots ト支點反力

反力定マシテ、 外 的 不 靜 定
 反力定マシテ、 内 的 不 靜 定



A, B トハ平衡ニアリ且是等外力ト部材應力トノ間ニモ平衡ガ存スルモノト假定ス、先ヅ反力ヲ求メンニハ $\sum V=0$ ナル平衡ノ條件カラ

$$A+B=\sum P \dots\dots\dots (a)$$

又 $\sum M=0$ ナル條件ヲ B 點ヲ原點トシテ式示スレバ

$$A l - \sum \{P \times (B \text{ 點ヨリノ距離})\} = 0$$

$$\therefore A = \frac{1}{l} \sum \{P \times (\text{各 } P \text{ ノ } A \text{ 點ヨリノ距離})\}$$

全ク同様ニ

$$B = \frac{1}{l} \sum \{P \times (P \text{ ノ } A \text{ 點ヨリノ距離})\}$$

又ハ簡單ニ式 (a) ヨリ

$$B = \sum P - A$$

次ニ内應力ヲ決定スル爲ニ此ノ結構ヲ任意斷面 tt ニテ三部材ヲ切斷シ、其ノ切ラレタル部材ノ應力ヲ S_1, S_2 , 及 S_3 トシテ此ノ應力ト等シキ力ヲ夫々其ノ切斷點ニ作用セシムレバ、此ノ斷面カラ何レカ一方ノ部分ヲ取去ルモ残りノ部分ハ其ノ位置ニ於テ平衡ヲ保ツベキ筈ナリ、今圖上 tt 斷面ニヨリ切斷サレタル結構ノ左側部分ヲ考フルニ外力ハ反力 A 及荷重及 P_0, P_1 及 P_2 ノ四力、内應力ハ S_1, S_2 及 S_3 ノ三力ニシテ、是等七ツノ力が靜的平衡ヲ保ツベキ筈ナリ、而シテ平衡ノ條件ハ前述ノ如ク三個ナルヲ以テ、見出スベキ應力ノ數ガ三個ヨリ多カラザル場合ニハ容易ニ之ヲ求メ得ラル、斷面 tt ヨリ左側ノ結構部分ニ對シ $\sum V=0$ ナル條件ヲ式示スレバ

$$A - P_0 - P_1 - P_2 + S_1 \cos \alpha_1 + S_2 \cos \alpha_2 = 0 \dots (a)$$

更ニ $\sum H=0$ ナル條件ヨリ

$$S_1 \sin \alpha_1 + S_2 \sin \alpha_2 + S_3 = 0 \dots\dots\dots (b)$$

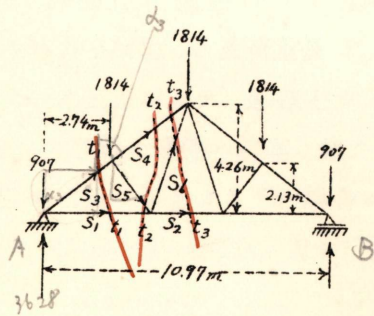
次ニ $\sum M=0$ ナル條件ヲ用ヒテ式ヲ立ツル場合ニ於テ、「モーメント」ノ中心ヲ S_1 ト S_2 トノ交點即チ接合點 3 ニ擇ベバ S_1 ト S_2 トノ此點ニ對スル「モーメント」ハ零トナルヲ以テ式ハ簡單トナル、即チ此ノ斷面 tt ノ左側ニ於ケル力ノ「モーメント」ヲ探リ $\sum M=0$ ヲ書ケバ

$$Aa - P_0a - P_1\rho_1 - P_2\rho_2 - S_3f = 0 \dots\dots\dots (c)$$

此ノ (a), (b) 及 (c) ノ三式ヲ用ヒテ三ツノ未知數 S_1, S_2 及 S_3 ヲ求ムル事ハ容易ナリ、而シテ此ノ事實ハ何レノ斷面ニ對シテモ同様ナリ、

此ノ式ヲ立ツル時ニハ未知應力ハ總テ之ヲ張力ト考ヘ斷面ニ向ヒテ作用スルモノトシテ式ヲ立テ其ノ數値ヲ計算シタル結果其ノ値ガ正ナラバ其ノ假定シタル所ハ正シク應力ガ張力ナリシコトヲ示シ、若シ求メタル數値ガ負ト表ハルレバ其ノ假定ハ反對ニシテ即チ應力ハ壓力ナリシコトヲ示ス、

✓ 例題、圖ニ示ス小屋組ノ各部材應力ヲ求ム、
解、



部材 S_1, S_2, \dots, S_6 ガ垂直線トナス角ヲ $\alpha_1, \alpha_2, \dots, \alpha_6$ トスレ

ハ

$$\begin{aligned}\sin \alpha_1 &= \sin \alpha_2 = 1, & \cos \alpha_1 &= \cos \alpha_2 = 0, \\ \sin \alpha_3 &= \sin \alpha_4 = 0.790, & \cos \alpha_3 &= \cos \alpha_4 = 0.614, \\ \sin \alpha_5 &= 0.614, & \cos \alpha_5 &= 0.790, \\ \sin \alpha_6 &= 0.247, & \cos \alpha_6 &= 0.969\end{aligned}$$

今 S_1 及 S_3 ヲ切斷スル如キ斷面 $t_1 t_1$ ヲ作り此ノ斷面ヨリ左ノ結構ニ對スル平衡式ヲ立ツレバ次ノ二式ヲ得、

$$\begin{aligned}S_1 + S_3 \sin \alpha_3 &= 0 \\ A - 907 + S_3 \cos \alpha_3 &= 0\end{aligned}$$

$A = 3628$ ヲ挿入シテ之ヲ解キ

○ $S_3 = -4430$ kg. (壓力), $S_1 = +3500$ kg. (張力) ヲ得、
次ニ S_1, S_5 及 S_4 ヲ切ル斷面 $t_2 t_2$ ヲ假定シ同様ニシテ

$$\begin{aligned}S_1 + S_5 \sin \alpha_5 + S_4 \sin \alpha_4 &= 0 \\ 3628 - 907 - 1814 - S_5 \cos \alpha_5 + S_4 \cos \alpha_4 &= 0\end{aligned}$$

ヲ得、コレニ既知ノ S_1 ヲ挿入シテ解ケバ

$S_4 = -3320$ kg. (壓力), $S_5 = -1430$ kg. (壓力) ヲ得、
更ニ S_2 及 S_6 ヲ求ムルタメニ S_2, S_6 及 S_3 ヲ切ル $t_3 t_3$ 斷面ヲ假定シ

$$\begin{aligned}S_2 + S_6 \sin \alpha_6 + S_3 \sin \alpha_3 &= 0 \\ 3628 - 907 - 1814 + S_6 \cos \alpha_6 + S_3 \cos \alpha_3 &= 0\end{aligned}$$

ヲ得、之ヲ解キテ

$S_2 = +2330$ kg. (張力), $S_6 = +1570$ kg. (張力) ヲ得、

(2) **力率法**
Method of moment

本法ハ第三ノ平衡條件 $\sum M = 0$ ノミニ據リテ解カントスル方法ニシテ力率中心ヲ適當ニ擇ビ此ノ方法ノミヲ順次適用シテ總テノ部材ノ應力ヲ見出スモノナリ、此ノ場合モ前ト同ジク未知應力

ハ總テ張力ト假定ス、第 139 圖ニ於テ求メタル式 (c) ヲ見レバ此ノ式ハ單ニ S_3 ナル未知數ノミヲ有スルヲ以テ此ノ一式ノミニヨリテ S_3 ヲ求メ得ラルルコトハ明ナリ、全ク同様ニ同圖ニ就キテ S_2 ノミヲ含ム式ヲ立ツルニハ力率中心ヲ S_3 ト S_1 トノ交點ナル支點 A ニ選ベバ可ナリ、此ノ場合ニハ S_1 ト S_3 トノ A 點ニ對スル「モーメント」ハ何レモ零トナルヲ以テナリ、

一般ノ方法ヲ述ベニ、先ヅ三部材ヲ切ル如キ斷面ヲ假定シ、其ノ部材ノ中何レカ應力ヲ求メントスル以外ノ二部材ノ交點ニ「モーメント」ノ中心ヲ選ビ、未知應力ヲ張力ト假定シテ此ノ斷面ノ左右何レカノ側ニアル外力ト今求メントスル應力トノ力率方程式ヲ立ツレバ可ナリ、

今若シ作りタル斷面ガ二部材ノミヲ切ル如キ場合ニハ力率中心ハ今應力ヲ求メントスル部材ノ上ニアラザル限リ他ノ部材ノ上ノ何處ニトリテモ差支ナク、唯挺率ノ長サノ明カナル所ヲ選ベバ可ナリ、

若シ作りタル斷面ガ未知ノ三部材ヨリ多クノ部材ヲ切ル如キ場合ニハ此ノ方法ハ用フルコトヲ得ズ、

「モーメント」ノ式ヲ立ツル時ニカガ力率中心ニ對シテ右廻リヲナス如キ場合ニハ之ヲ正ト考ヘ、之ニ反スル場合ニハ負ト考フルコトハ一般ノ通則ナリ、

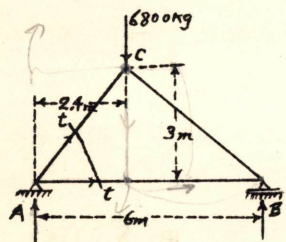
此ノ方法ヲ用フル困難ハ挺率長ノ決定ガ困難ナルコトニ存ス、コレヲ求ムルニハ幾何學的ニ又三角術的ニ行ヒ得ルモノナルモ其ノ計算ハ場合ニヨリテハ面倒ナリ、即チ如何ナル結構ニモ用ヒラルベキ一般的方法無ク、其ノ最モ廣ク推奨サルル方法ハ先ヅ結構圖ヲ精密ニ紙上ニ畫キ、其ノ圖上ニテ挺率長ヲ測ル、別ニ計算

moment / arm.



ヨリ之ヲ求メタル場合ニモスク圖式的ニ照査スルヲ可トス、斯ノ如キ困難アルヲ以テ普通ハ挺率長ガ容易ニ求メ得ラレテ簡單ニ力率法ノ適用シ得ル部材ニ對シテノミ此ノ方法ヲ用ヒ、他ノ部材ニシテ挺率ノ求メ難キモノニハ切斷法其ノ他ヲ適用スルヲ可トス、

例題、圖ニ示ス如ク頂點ニ荷重 6800 kg. ヲ有スル三角單構アリ、水平抗張材 AB ノ應力ヲ求ム、



解、支點反力ハ

$$A = \frac{1}{6}(6800 \times 3 \cdot 6) = 4080 \text{ kg.}$$

$$B = 6800 - 4080 = 2720 \text{ kg.}$$

斷面 tt ノ左側ニ就テ頂點 C ニ對スル「モーメント」ヲトリ

$$A \times 2.4 - AB \times 3 = 0$$

$$\therefore AB = \frac{A \times 2.4}{3} = \frac{4080 \times 2.4}{3} = 3264 \text{ kg. (張力)}$$

(3) 分解法、

Method of resolution of forces

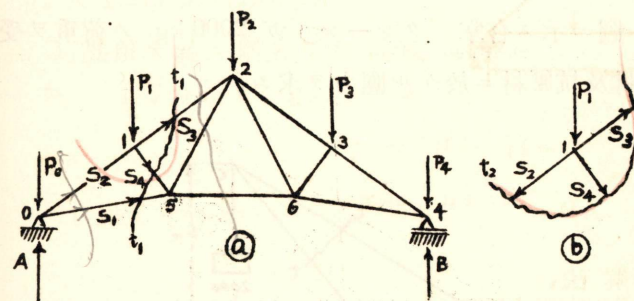
此ノ方法ハ平衡條件ノ第一及第二ノミヲ應用セントスルモノナリ、第 140 圖ニ示ス斷面 t_1t_1 ヲ以テ三部材ヲ切り其ノ未知應力ヲ S_1, S_4 及 S_3 トシ、其ノ各部材ノ垂直トナス角ヲ α_1, α_4 及 α_3 トス、然ル時ハ平衡條件ヨリ

$$\sum H = S_1 \sin \alpha_1 + S_4 \sin \alpha_4 + S_3 \sin \alpha_3 = 0$$

$$\sum V = A - P_0 - P_1 + S_1 \cos \alpha_1 - S_4 \cos \alpha_4 + S_3 \cos \alpha_3 = 0$$

尙 (b) 圖ニ示ス如ク接合點 1 ノ周圍ニ斷面 t_2t_2 ヲ考ヘ其ノ部材 S_2, S_4 及 S_3 ヲ切ル時之等ヲ張力ト假定シ

$$S_3 \sin \alpha_3 + S_4 \sin \alpha_4 - S_2 \sin \alpha_2 = 0$$



$$\sum H = 0$$

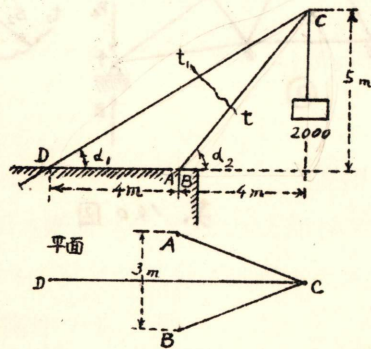
$$\sum V = 0$$

第 140 圖

$$S_3 \cos \alpha_3 - P - S_4 \cos \alpha_4 - S_2 \cos \alpha_2 = 0$$

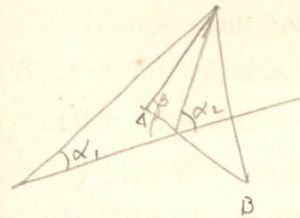
此ノ何レノ場合ニ於テモ何レモ三未知項ヲ有スルモ、若シ其ノ内何レカ一ツノ應力ガ他ノ方法例ヘバ力率法等ニテ見出サレタルトキハ残りノ二カハ此ノ二ツノ方程式ニテ解キ得ル譯ナリ、然ルニ結構ニ於テ其ノ兩端ノ支點ヨリ解キ始ムレバ支點ニハ二部材ガ存スルノミナルヲ以テ二方程式ヲ立ツルコトニヨリ其ノ應力ガ決定セラルベク、此ノ點ヨリ始メ順次上述ノ方法ヲ應用シテ進メバ未知三力ノ内ノ一ツハ既知トナリ其ノ結果平衡條件ノ第一及第二式ヲ用フルノミニシテ別ニ第三式ヲ用ヒズシテ残りノ二未知應力ヲ求ムルコトヲ得、

例題、 圖ニ示ス合掌「クレーン」ガ 2000 kg. ノ荷重ヲ受ケタル時抗張材及抗壓材ニ於ケル應力ヲ求ム、
Shear legs



解、 荷重及部材配置ハ抗張材 CD ヲ含ム垂直面ニ對シテ對稱的ナルヲ以テ断面 tt ヲ假定シテ其ノ上方ヲ考へ次ノ二方程式ヲ得、

$$\sum V = 2000 + CD \sin \alpha_1 + 2AC \sin \beta \sin \alpha_2 = 0$$



$$\sum H = CD \cos \alpha_1 + 2AC \sin \beta \cos \alpha_2 = 0$$

然ルニ部材長ヨリ

$$\sin \alpha_1 = \frac{5}{\sqrt{8^2 + 5^2}} = 0.530, \quad \cos \alpha_1 = \frac{8}{\sqrt{8^2 + 5^2}} = 0.848$$

$$\sin \alpha_2 = \frac{5}{\sqrt{4^2 + 5^2}} = 0.781, \quad \cos \alpha_2 = \frac{4}{\sqrt{4^2 + 5^2}} = 0.625$$

$$\sin \beta = \frac{\sqrt{4^2 + 5^2}}{\sqrt{4^2 + 5^2 + 1.5^2}} = 0.974$$

(AB 線ト AC 材トノ間ノ實角ヲ β トス)

之等ノ値ヲ挿入シテ

$$2000 + 0.530 CD + 1.520 AC = 0$$

$$0.848 CD + 1.216 AC = 0$$

二式ヲ解キテ

$$AC = BC = -2627 \text{ (壓力)}, \quad CD = +3762 \text{ (張力)}$$

八二、結構應力ノ圖式算定法、

結構ガ其ノ接合點ニノミ荷重ヲ受ケタル時ニ各部材ニ生ズル應力ハ張力又ハ壓力ヲ出ヅルコト無キヲ以テ結構ノ部材ハ抗張材^{Tie}カ然ラズンバ抗壓材ナリ、

結構ノ上側線即チ一方ノ支點ヨリ他方ノ支點ニ及ブ上側線ヲ構成スル部材ヲ上弦材ト云ヒ、同様ニ一支點ヨリ他支點ニ及ブ下側線ヲ下弦材ト云フ、次ニ上弦ノ格點ト下弦ノ格點トヲ結合スル部材ヲ復材^{Web member or brace}ト云ヒ、其ノ垂直ナルカ傾斜セルカニヨリテ垂直材^{Vertical member}又ハ斜材^{Diagonal member}ト云フ、結構部材ノ應力ヲ求ムル圖式的方法ヲ列擧スレバ下ノ如シ、

(1) 「クールマン」ノ切斷ノ方法、

Culmann

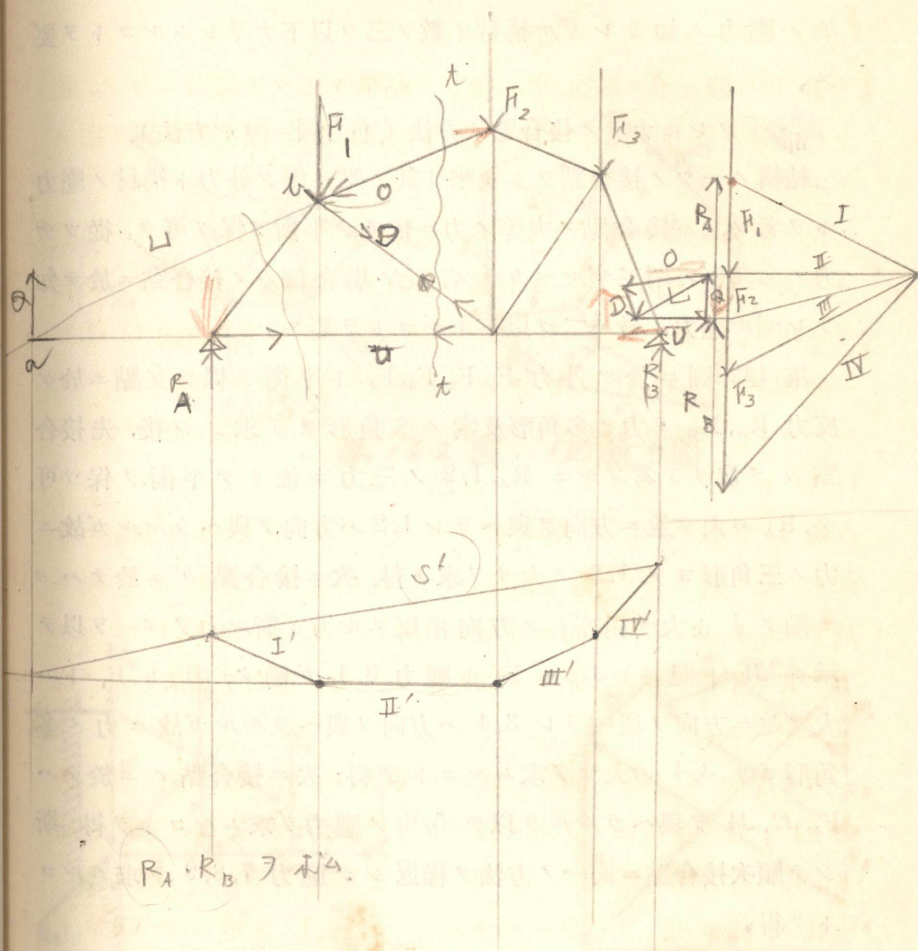
第 141 圖ニ示ス斷面 tt ニ依リテ結構ヲニツノ部分ニ分ツ、各々ノ部分ハ外力ト構材ニ働ク應力 O, D, U ニ依リテ平衡ヲ保タザルベカラズ、

左ノ部分ニ於テハ外力 R_A, F_1 ガ働キ其ノ合力 Q ハ力ノ三角形ヨリ大サ並ニ方向ヲ與ヘラレ其ノ着力點ハ索線 S' ト II' トノ交點 a ニ在リ、平衡ノ條件ヨリ Q ヲ三ツノ與ヘラレタル方向 O, D, U ニ分配スレバ Q, O, D, U ノ力ノ多角形ハ閉ジザルベカラズ、「クールマン」ノ方法ニ依リテニツ宛與ヘラレタル方向（即チ Q ト U, O ト D ）ヲ交ラシメツノ交點ヲ a, b トシ「クールマン」ノ直線 L ヲ引ク、先 a 點ニ於ケル Q ヲ L ト U トノ方向ニ分配シ、更ニ其ノ L ト大サ相等シク方向相反スル力 L ヲ b 點ニ於テ O ト D トノ方向ニ分配ス、斯シテ Q ハ O, D, U ナル三力ト共ニ平衡ヲ保ツ、此ノ O, D, U ノ三力ノ方向ヲ結構ノ左ノ部分ニ記入ス、

次ニ斷面 tt ノ右ノ部分ニ於テハ外力 F_2, F_3, R_B ガ働キ其ノ合力 Q' ハ力ノ多角形ヨリ求メ得ベク Q' ト大サ相等シク方向相反ス、其ノ着力點ハ索線 S' ト II' トノ交點ニシテ Q' ノ着力點ト一致ス、故ニ Q' ヲ「クールマン」ノ直線 L ヲ用ヒテ O, D, U ノ方向ニ分配スレバ左ノ場合ト大サ相等シク方向相反スルコトヲ知ル、此ノ場合ノ三力ノ方向ヲ結構ノ右ノ部分ニ記入ス、斯クシテ構材ノ各々ニ働ク應力ハ一對ノ矢頭ヲ以テ示サレ、 O ハ壓力、 D 及 U ハ張力ヲ受ク、

「クールマン」ノ方法ハ任意ノ構材ニ働ク應力ヲ求ムルニ適シ、他ノ方法ニヨリテ求メシ場合ノ吟味ヲ行フコトモ容易ナリ、斷面

[第 141 圖]



R_A, R_B ノ力

此ハ應力ノ知ラザル構材ノ數ヲ三ツ以下ナラシムルコトヲ要ス、

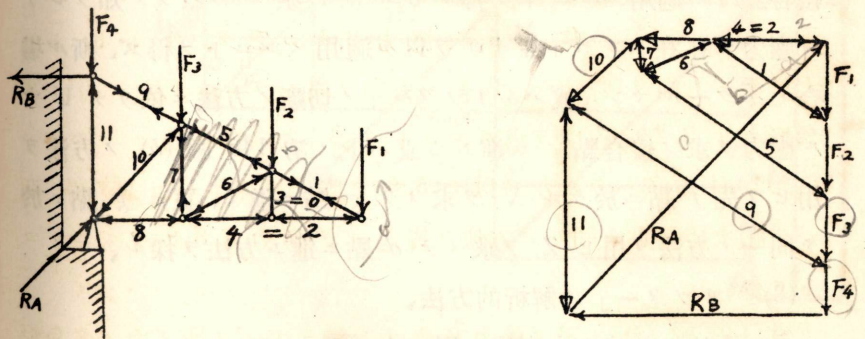
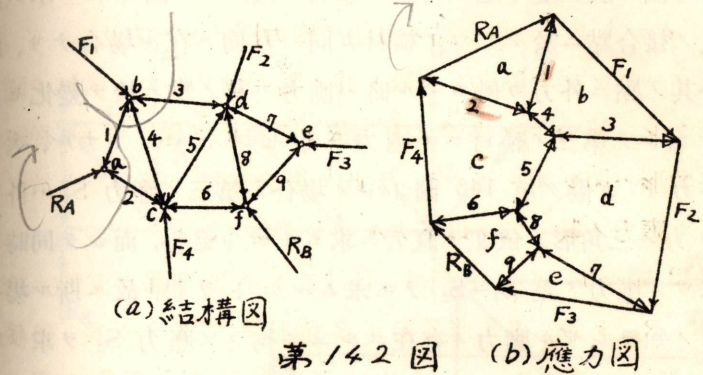
(2) 「クレモナ」ノ接合點ノ方法 (應力圖ニヨル方法)、

結構ノ一ツノ接合點ヲトリ來リ其ノ點ニ働ク外力ト構材ノ應力トヲ考フレバ接合點ハ夫等ノ力ニ依リテ平衡ヲ保ツ可ク、從ツテ力ノ多角形ハ閉ジザルベカラズ、此ノ場合個々ノ接合點ニ於テ知ラザル應力ノ數ハ二ツ以下ナルコトヲ要ス、

第 142 圖ニ於テ外力 F_1, F_2, F_3, F_4 ト平衡ヲ保ツ支點ニ於ケ反力 R_A, R_B ヲ力ノ多角形及索ノ多角形ヨリ求メシ後、先接合點 a ヲ取リテ考フルニ $R_A, 1, 2$ ノ三力ニ依リテ平衡ヲ保ツ可ク、 R_A ハ大サ並ニ方向ヲ與ヘラレ $1, 2$ ハ方向ヲ與ヘラレルガ故ニ力ノ三角形ヨリ $1, 2$ ノ大サヲ求メ得、次ニ接合點 b ニ於テハ a ニ働ク 1 ト大サ相等シク方向相反スル力 (斯ル力ヲ \leftarrow ヲ以テ示シ $\Delta 1$ ト記ス) $\Delta 1$ ト F_1 ト應力 $3, 4$ ガ働ク、 $\Delta 1$ ト F_1 トハ大サ並ニ方向ヲ與ヘラレ $3, 4$ ハ方向ヲ與ヘラレルガ故ニ力ノ多角形ヨリ $3, 4$ ノ大サヲ求ムルコトヲ得、次ニ接合點 c ニ於テハ $F_4, \Delta 2, \Delta 4$ ヲ與ヘラレルヲ以テ $5, 6$ ノ應力ヲ求ムルコトヲ得、斯シテ順次接合點ニ同一ノ方法ヲ繰返シテ應力 $7, 8, 9$ ヲ求ムルコトヲ得、

第 142 圖 (b) ニ示ス外力及應力ヲ總テ表ハス所ノ力ノ多角形ヲ「クレモナ」ノ應力圖ト稱ス、「クレモナ」ノ應力圖ニ於テハ一ツノ回轉ノ向キヲ以テ閉ジザルベカラズ、且各接合點ニ於ケル力ノ多角形モ亦同一ノ回轉ノ向キヲ以テ閉ジザルベカラズ、

上ノ例ニ於テハ構材ハ總テ壓力ヲ受クルコトニナルモ第 143 圖及第 144 圖ニ示ス例ニ於テハ構材中或モノハ張力ヲ受ケ、或モノ



力ノ多角形ハ閉ジザルベカラズ

31/2/100.1

ハ壓力ヲ受ク、

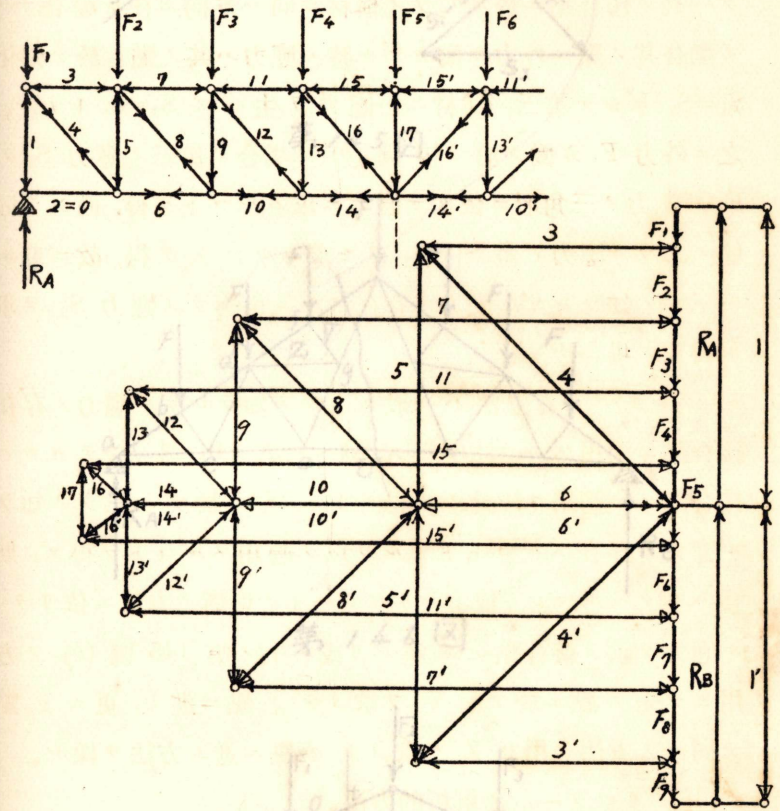
斯ル方法ニ於テ屢々起ル特別ノ場合ハ第 145 圖 (a) ニ示ス如ク
 ーツノ接合點ニ於テニツノ構材ガ同一方向ニ在ル場合ナリ、此
 ノ場合其ノ點ニ外力ガ働カザル時ハ應力ハ其ノ點ニ於テ變化セズ
 $S_1=S_2$ ニシテ第三ノ構材ニハ應力ヲ生ゼズ $S_3=0$ トナル、次ニ
 之ニ外力 F ガ働ク第 145 圖 (b) ノ場合ハ第三ノ應力 S_3 ハ外力
 F ヨリカノ三角形ニ依リテ直チニ求ムルコトヲ得、而シテ同時ニ
 他ノ二ツノ應力ノ差 S_1-S_2 ヲモ求ムルコトヲ得、故ニ斯ル場合
 ハ三ツノ知ラレザル應力ノ存在スルニモ拘ラズ應力 S_3 ヲ求メ得
 ル特別ノ場合ナリ、

「クレモナ」ノ方法ハ一般ニ三ツノ知ラレザル應力ノ存在スル
 接合點ニ適用スルコトヲ得ズ、例ヘバ第 146 圖ニ於テ a, b, c ナル
 接合點ニハ適用スルコトヲ得ルモニ d, e 於テハ三ツノ知ラレザ
 ル應力ガ存在スルコトトナルヲ以テ適用スルコトヲ得ズ、斯ル場
 合ハ「クールマン」或ハ「リッター」ノ切斷ノ方法ニ依リテ U ナ
 ル應力ヲ求メ接合點 e ニ進ムカ或ハ上ノ第 145 圖 (b) ノ方法ヲ
 用ヒテ先 f 點ニ於ケル V ヲ求メテ g 點ニ進ミ、更ニ g 點ニ於
 テ同一ノ方法ヲ用ヒ Z ヲ求メテ d 點ニ進ム方法ヲ採ル、

(3) 「リッター」ノ解析的方法、

コノ方法ハ前述ノ力率法ト同一ナリ、

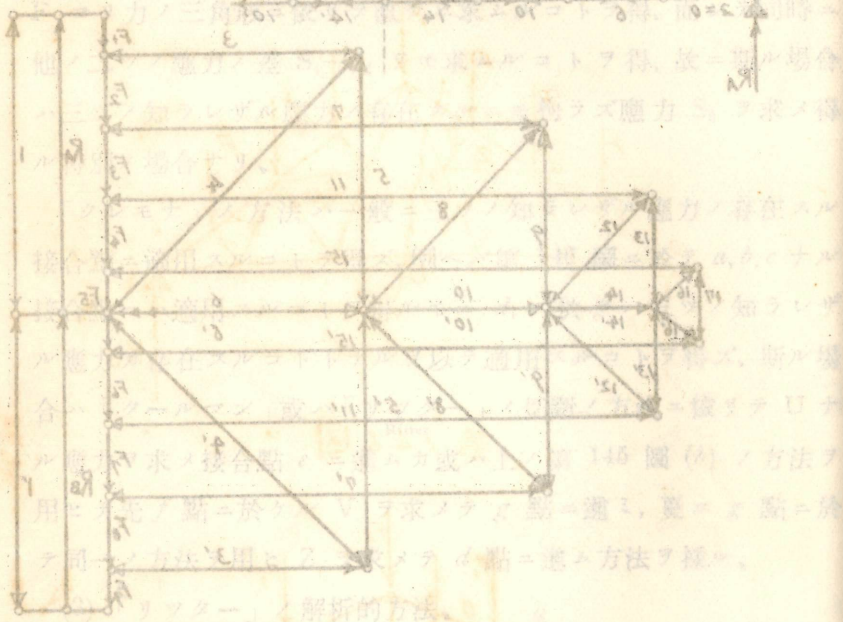
三ツノ一點ニ會セザル構材ヲ切ルーツノ斷面 tt ニ依リテ結構
 ヲ二ツノ部分ニ分チ、其ノ一方ヲ取り來リ切斷サレシ構材ノ軸方
 向ニ働ク應力ヲ O, D, U トス (第 147 圖)、應力ハ常ニ張力ニ對
 スル方向ヲ有スルモノト假定シ計算ノ結果應力ガ正ノ記號ヲ以テ
 表ハサル場合ハ此ノ假定ト一致シ構材ニハ張力ガ働キ、負ノ記號



第 144 図

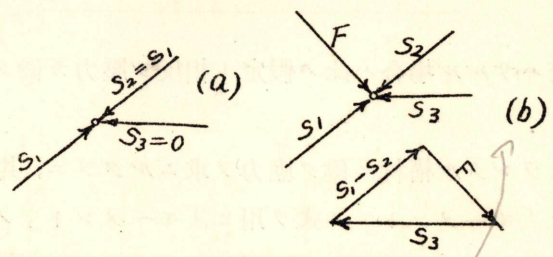
一力ヲ受ク。

新ノ方法ニ於テ度々起ル特別ノ場合一第145圖(a)ニ示ス如ク...

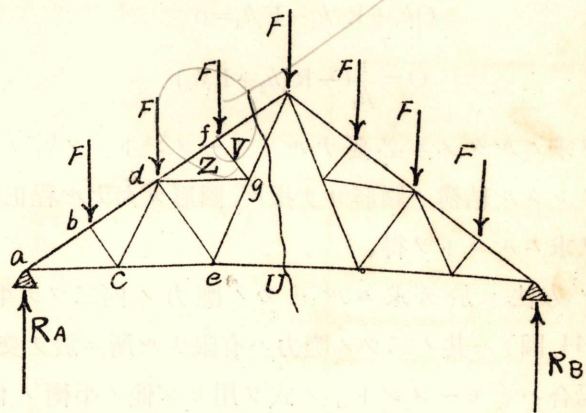


ノ方法ニ前記ノ力等圖ヲ用テ...

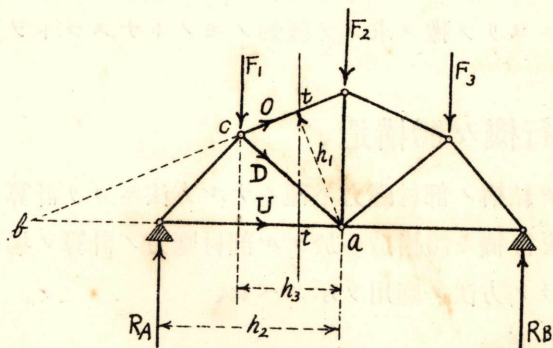
三ツノ一ノ點ニ會セザル無キ切リニ... 断面力ニ依リテ結構...



第145圖



第146圖



第147圖

ヲ以テ表ハサル場合ハ此ノ假定ト相反シ壓力ガ働クモノト了解ス、

切斷セラレタル構材ニ働ク應力ヲ求ムルタメニ、其ノ平衡ノ條件トシテ「モーメント」ノ式ヲ用ヒ、「モーメント」ノ軸ヲ二ツノ構材ノ交點ニ採ル、即チ第 147 圖ニ於テ O ヲ求ムルタメニ D, U ノ交點 a ヲ採リ「モーメント」ノ式ヨリ

$$O/l_1 + R_A/l_2 - F_1/l_3 = 0$$

$$\therefore O = \frac{1}{l_1}(-R_A/l_2 + F_1/l_3)$$

應力ヲ求ムルタメニ必要ナル「モーメント」ノ臂 l ハ尺度ヲ以テ示サレタル結構ノ圖形ヨリ採ル、圖形ガ大ナル程正確ナル l ノ長サヲ求ムルコトヲ得、

此ノ方法ニ於テ求ムル三ツノ應力ノ内二ツガ平行ナル場合(第 144 圖)ハ其ノ二ツノ應力ハ有限ナル所ニ於テ交ルコトナシ、斯ル場合ハ「モーメント」ノ式ヲ用ヒズ他ノ平衡ノ條件ヲ用フ、例ヘバ此ノ二ツノ應力ニ直角ナル方向ノ分力ノ代數的總和ハ零ニ等シ、次ニ切斷ガ四ツノ構材ヲ切ル場合ニハ其ノ一ツニ働ク應力ヲ他ノ切斷ニヨリテ豫メ求メテ既知ノモノトナスコトヲ要ス、

八三、飛行機々體構造、

上述ノ如ク結構ノ部材應力ハ種々ナル方法ニヨリ計算スルコトヲ得、次ニ飛行機々體構造ニ於ケル部材應力ノ計算ノ場合ヲ例ニトリテコレヲノ方法ノ應用ヲ示スベシ、

(1) 應力圖、

或構造物ノ個々ノ部材應力ヲ決定スル場合ニ於テ應力圖ヲ用フ

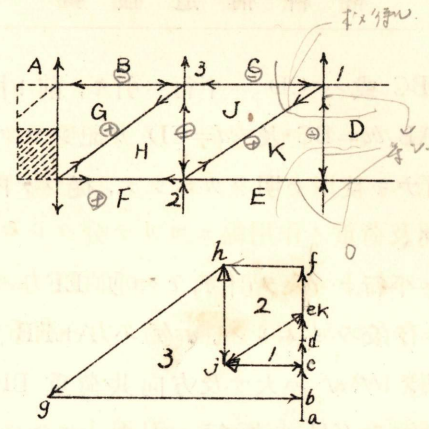
ルコトヲ最モ便トス、

第 149 圖ハ圖ノ如ク垂直方向ニ反力ヲ受クル複葉飛行機ノ立面圖ノ半分ヲ示ス、使用文字ハ「ボウ」ノ記號ヲ用フ、即チ文字ハ部材間ノ空間及荷重ノ作用線ニヨリテ分タル空間ニ入ルモノトス、例ヘバ右上ノ支點ニ於ケル垂直反力ハ反力 CD トシテ記シ、中間ニ存在スル翼間ノ柱ニ働ク力ハ荷重 HJ ト呼ビテ可ナラン、以下同様トス、

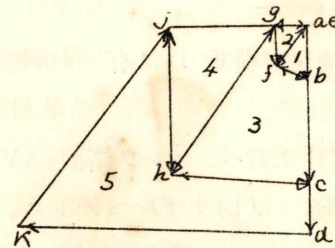
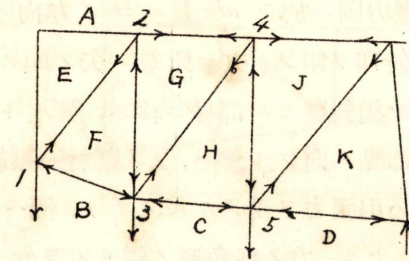
先ヅ外力ヲ或都合ヨキ寸法ニテ af 線上ニトル、コノ尺度ニテハ ab ハ反力 AB ヲ示ス、他モ同様ナリ、

反力 DE ヨリ始ムレバ、右下角ノ KED ハ反力 DE トソレニ對應スル KD ニ於ケル大サ等シク方向反對ナル推力ニヨリ明ラカニ釣合ヲ保ツ、而シテ KE ハ外力 DE ノ線ト直角ヲナスヲ以テ荷重ヲ受クルコトナシ、從ツテ d ヨリ垂直線上ニ DK ニ對應スル長サ dk ヲトレバ dk ハ大サ及方向共推力 KD ヲ表ハス、 k ハ明ラカニ e ト一致ス、次ニ k ヨリ KJ ニ平行ニ kj ヲ引ケバ kj ハ荷重 KJ ノ方向ヲ示ス、ソノ大サヲ見出スニハ、JC ニ平行ニ jc ヲ引キ jk ト j ニテ會セシム、然ルトキハ jk ハ大サ及方向共荷重 KJ ヲ表ハス、同様ニ jc ハ JC ヲ表ハス、又 kj ヲ HJ ニ、 fh ヲ FH ニ平行ニ引ケバ荷重 JH 及 FH ノ大サ及方向ヲ得、同様ニシテ GB, HG ヲ見出スコトヲ得、カクシテ應力圖ヲ得、凡テノ部材應力ノ實際ノ値ハ應力圖ヨリ最初外力ヲ書キタル寸法ニテ讀取ルコトニヨリ求ムルコトヲ得、

次ニ胴體ノ計算法ヲ示ス、第 150 圖ハ胴體ノ前半ノ側面圖ニシテ發動機等ニヨル荷重ハ AB, BC 及 CD ニシテ互ニ平行ニ働クモノトス、



第 149 圖



第 150 圖

$abcd$ ヲ AB, BC 或ハ CD ニ平行ニ引キ、前ト同様ニ適當ナル寸法ニテ $ab=AB, bc=BC$ 及 $cd=CD$ ヲ記シツク、

AE ニハ荷重ナキコトハ明ラカニシテ、從ツテ内力線圖ニ於テ e ハ a ト一致ス、

b ヨリ BF ニ平行ニ bf ヲ引キ、 e ヨリ EF ニ平行ニ ef ヲ引キテコレヲ f ニテ交ラシムレバ、 $acbf$ ハ $AEFB$ 點ニ對スルカノ多角形ナルヲ以テ bf, ef ハ大サ及方向共荷重 BF, FE ヲ表ハス、 ch ヲ CH ニ、 gh ヲ GH ニ平行ニ引キ、カクシテ組梁ノ部材應力ノ凡テヲ決定スルコトヲ得、

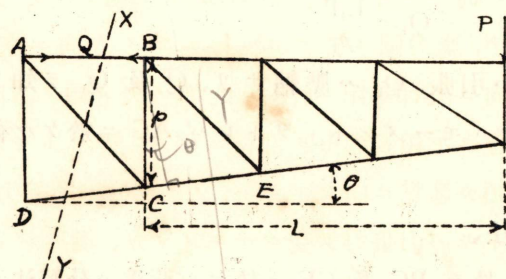
部材應力ガ引張ナルカ或ハ壓縮ナルカヲ見分クルニハ次ノ如キ簡單ナル規則ニ從ヘバ可ナリ、今 $AEFB$ ヲ考フ、反力 AB ハ垂直ニ下向ニシテ、應力圖ニ於テ ab 上ニコノ方向ニ矢印ヲ附ス、多角形ニ同方向ニ矢印ヲ附ス、次ニ此等ノ矢ノ頭ノ方向ヲ今考ヘツツアル點ニ會スル相對應セル部材ニ移ス、然ルトキ若シ部材ニ附シタル矢ノ頭ガ節點ニ向フトキハ、ソノ部材ハ壓縮力ヲ受ケ、節點ニ向ハザルトキハ引張力ヲ受クルモノナリ、例ヘバ BF ハ壓縮ニシテ、 EF ハ引張ナリ、力ノ多角形ノ廻リ方ヲ知レバ部材 FG, GH, HC ニツキテモ同様ナリ、

(2) 力率法、

第 151 圖ハ圖ノ如ク機尾ニ荷重 P ヲ有スル胴體ノ測面圖ヲ示ス、

任意ノ $ABCD$ ナル部分ヲ考ヘ、コレヲ斷面 XY ニテ切斷ス、而シテ斷面ハ三部材ヨリ多クヲ切ラザルモノトス、

然ルトキハ外力 P ハコノ斷面ヲ横切ル AB, AC 及 CD ニ於ケル荷重ト平衡ヲ保ツ、此等ノ中 AC, CD ハ C 點ニ於テ會スル



第151圖

$$\sum Y = AC \sin \theta + BC \cdot \cos \theta = 0$$

ヲ以テ C 點ニ關スル「モーメント」ヲトレバ P ト AB ニ於ケル荷重トノ關係式ヲ得テ直チニ後者ノ値ヲ知ルコトヲ得、

今 Q ヲ AB ニ於ケル荷重、 ρ ヲ C ヨリ AB ニ下セル垂線ノ長サ、L ヲ P ノ作用線ニ C ヨリ下ル垂線ノ長サトスレバ

$$Q\rho = LP$$

$$Q = \frac{LP}{\rho}$$

同様ニ L_1 ヲ A ヨリ P ノ作用線ニ下セル垂線ノ長サ、 ρ_1 ヲ A ヨリ CD ニ下セル垂線ノ長サ、 Q_1 ヲ CD ニ於ケル荷重トスレバ、A 點ニ關スル「モーメント」ヲトリテ

$$Q_1\rho_1 = L_1P$$

$$Q_1 = \frac{L_1P}{\rho_1}$$

明ラカニ Q ハ引張、 Q_1 ハ壓縮ナリ、Q 及 Q_1 ヲ知リタルヲ以テ B ニ關スル「モーメント」ヲトレバ AC ニ於ケル荷重ヲ得ベシ、

(3) 分解法、

第 151 圖ニ於テ BC 及 CE ニ於ケル荷重ハ分解法ニヨリ見出サル、從ツテ C 點ガ平衡ニアレバ DCE ニ垂直ナル分解ニヨリ

$$(BC \text{ ニ於ケル荷重}) \cos \theta = (AC \text{ ニ於ケル荷重}) \sin \theta$$

コレハ BC ニ於ケル荷重ヲ與フ、BC ニ垂直ナル分解ニヨリ

$$(DC \text{ ニ於ケル荷重} - CE \text{ ニ於ケル荷重}) \cos \theta$$

$$= (AC \text{ ニ於ケル荷重}) \sin \theta$$

コレハ CE ニ於ケル荷重ヲ與フベシ、

P ノ作用點ヨリ始メテ順次凡テノ部材應力ヲ決定スルコトヲ

